

『21世紀を目前にして』
—共生の視点から—



第21回 RYLAセミナー報告

1999.3.27~3.30

神戸YMCA余島野外活動センター

目 次

RYLAセミナーとは	1
プログラムのねらいと内容	1
セミナースケジュール	1

1 88

開講式

「皆さんのご活躍を願って」	2670地区ガバナー	佐々木 善堯	2
「受講生の皆さんもロータリアンも共に成長を」				
	2680地区ガバナー	谷水 清司	3
「共に生きる喜びを」	ディーン	山口 徹	4
RYLAの皆様へ	RYLA運営委員会			5
オリエンテーション				
「ロータリーとは、RYLAとは」		深川 純一	6

2 88

講義

「私の人生観」

—私の人生体験からの提言—

グローリー工業株式会社
会長 松下 寛治氏 10
(姫路南RC)

キャンプファイアー

「参加者一人ひとりの願い」 16

3 目次

講 義

「生きる」

—あなたのことが自分のことより

大切に思える旅に出るー

四天王寺国際仏教大学講師
楽団あぶあぶあ主宰 東野 洋子さん 19

フォーラム

バズセッションの発表 アドバイザー 深川 純一 25

4日目

講 義

「21世紀における共生社会への思い」

元R I 理事, P G. 今井 鎮雄氏 33

閉講式

「皆さんたちに期待しています」

2680地区
インカミングガバナー 米谷 收 38

「皆さん、地域社会に共生という
種をまいてください」

2670地区
R Y L A 委員長 篠原 成行 39

「チャチャチャの時代・
愛の心から始めよう」

ディーン 山口 徹 40

参加者感想文

A班 42

B班 49

C班 56

D班 64

参加者名簿 71

第21回 R Y L A セミナー運営委員会 77

RYLAセミナーとは

ロータリー青少年指導者養成プログラム（Rotary Youth Leadership Awards…RYLA）は、若い人々のためのプログラムであり、国際ロータリーが1971年に公式に採用したプログラムです。

ロータリーが青少年を尊重し、かつ、青少年に関心を抱いていることを一層明らかにし、選考した青少年指導者およびその素質ある人に実地訓練を体験させ、責任ある、効果的な自発性に富む指導方法を身に付けるよう激励、援助することを主な目的としています。

プログラムのねらいと内容

RYLAセミナープログラムのねらいは、受講生に五つの特色を味わってもらうことがあります。

- 1) 高いレベルの講義と討論
- 2) グループタイム（親睦の熟成）
- 3) 自由と規律
- 4) 余島の自然
- 5) カウンセラーシステム

恵まれた自然に囲まれたなかで、『これからどうして生きるか』のテーマを、講義・キャビンタイム・思索の時間・バズセッション・フォーラムなどを通して徹底的に学び、語り合い、考えていただきたいと思います。



セミナースケジュール

3月 25 日	開講式 オリエンテー ション (15:00)				パオ リーブ イニ シエ ンス	キャビンタイム
3月 26 日	朝 食 (7:30)	松下 寛治氏 (9:30)	昼 食	レクリエーション・ヨット テニス・ソフトボール アーチェリー他	タ 夕 食	キャンプファイヤー 親睦の夕べ キャビンタイム
3月 27 日	朝 食 (7:30)	東野 洋子氏 (9:30)	昼 食	思索 の 時 間	バスセッション	フォーラム キャビンタイム
3月 28 日	朝 食 (7:30)	今井 鎮雄氏 (9:30)	閉講式 (11:30)	昼 食		
			離島			

8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

開講式

「皆さんのご活躍を願って」

国際ロータリー第2670地区

ガバナー 佐々木 善堯

この度、第21回目の R Y L A セミナーを開催致しましたところ、非常に沢山の方々がお集まりいただきましてありがとうございます。ごあいさつはこのテキストの一番最初に書いてございますので、改めて申し上げることもございません。

このセミナーはここにおいての今井先生と、亡くなられた松山クラブの梶浦先生の肝入りで始められたものでございます。そしてその間、両地区の R Y L A 委員の方々や青少年奉仕の方々で非常に努力をされて、21回という長い伝統が出来ました。このセミナーから巣立った方々が非常に活躍をされている方が沢山おられます。3泊4日という短い間ではございますが、いろいろな立派な方々のお話もうかがえることと思います。実のあるセミナーでありますことを祈念致しまして、ごあいさつにかえたいと思います。

皆さんどうか頑張って勉強してください。



「受講生の皆さんもロータリアンも 共に成長を！」

国際ロータリー第2680地区

ガバナー 谷水清司

R Y L Aセミナーは、毎年何千人という若い人々が集まって、夏を中心に世界中で開かれています。

個人の開発、指導者としての技量、良き市民としての資質の増進を目的としています。

正式名称は「ロータリー青少年指導者養成プログラム」と言いますが、「キャンプ・ロイヤル」「キャンプ・エンタープライズ」「ユース・リーダーズ・セミナー」「ユース・コンフェレンス」と呼ばれることもあります。



R Y L Aプログラムは、1959年にオーストラリアで始まりました。このときは、クイーンズランド州全体から若い人たちが選ばれ、クイーン・エリザベス2世の若いところであるプリンセス・アレキサンドラも参加しました。

その時ホスト役を務めたブリスベンのロータリアンたちは、これらの若い指導者の優秀性に感銘を受けまして、毎年一回集まろうではないか、ということが決まりました。

1971年にはR Iの理事会がこのR Y L Aを国際ロータリーの正式プログラムとして採択したのであります。

R Y L Aは、青少年が集まる、それをロータリアンがお手伝いをする。それだけでなく、一緒に参加するロータリアンを、よりよきロータリアンへ成長させ、その生き方を豊かなものにしてくれる存在でもあります。

この余島の野外センターの自然を十分満喫していただきて、普段都会では味わえないいろいろな勉強をしていただきたい。皆様方の将来にきっと役に立つことがたくさんあると信じています。

「共に生きる喜びを！」

ディーン

山 口 徹
(神戸ＲＣ)

今回のＲＹＬＡセミナーにご参加下さり心より歓迎申し上げます。

この3泊4日を「自ら学び、考え、自己の生き方に自覚を深める」時として下さい。

21世紀を担う皆様方に期待すること大であります。今私たちに問いかかけられていることは「地域市民社会・共生社会の創造」に如何にチャレンジし、自ら関わっていくかということではないでしょうか。そのためには、時代の変化をしっかり見つめ、「変えるべきものに対して、それを変えるべき勇気を、変えることのできないものに対して、それを受け入れる冷静さを、そして、変えるべきものと変えることの出来ないものを判断する知恵」を持つことではないでしょうか。

さらに「国家が何をしてくれるか、ではなく国家のために何ができるかを問うてほしい」とはケネディ大統領就任の演説の有名な一説ですが、「国家」を「地域」「家族」「他者」に読みかえる時が今ではないでしょうか。

今後ますます少子・高齢化社会を推し進める日本社会・地域の中ですべての人が「生きる喜び」を感じえることが極めて大切であると感じ、考え、行動する指針を共有していきたいものです。

このようなことを講義、討論、交わり等を通して、確認し合えれば大変嬉しく思います。そして、受講生の皆様方がこのＲＹＬＡセミナーで得た糧を大切にそれぞれの地域で今後益々ご活躍くださることが私たちロータリアンの心からの願いです。

“Grant that I may not so much seek to be consoled as to console; to be understood as to understand; to be loved as to love; ”

RYLAの皆様へ

RYLA運営委員会



オープニングパーティ

第21回 RYLAセミナーに皆様と一緒に過ごすことができるのをうれしく思います。

この RYLA のもつ意義を最高のものにするために、次のことを大切にしてほしいと思います。

1. 出会いを大切に

全然未知の皆さんのが RYLA の心を求めてこの余島に来られたのです。良き友と出会い、良き先輩のカウンセラーやロータリアンと出会ったよろこびをかみしめ、また最高の恩師である講師に出会いリーダーとしての心構え、リーダーとしてより高い境地へ飛躍する心の向上は出会いから始まり親睦から始まります。心をひらいて仲良くしてください。

2. 自由を大切に

皆さんはリーダーばかりですのでスケジュールは完全な自主管理を前提として組んであります。時間的規制も最小限にし、十分な自由意志によって自律してください。

3. 時間を大切に

時間は全員の共有財産であります。例えば講義の時間、討論の時間、キャンプファイヤーの時間など皆で何かをする時は他人への思いやりの心をもって時間は必ず守ってください。それ以外の時間は皆さんの自由です。自律におまかせします。

4. 自然を大切に

素晴らしいこの余島は決して一日でなったものではありません。1950年今井 PG が発見した島で、RYLAのために借り切っています。RYLAのため、道を作り家を建て年々改善されて現在のようになったのです。孤島もありますので火事、盗難、災害は十分注意し、また一木一草も傷つけないようにしてください。

オリエンテーション

ロータリーとは・RYLAとは 用語の解説を含めて

アドバイザー

深川純一

皆さん今日は。ロータリーというのは皆さん方にはあまり耳慣れない言葉かと思いますが、ロータリーは今から94～5年前にシカゴの下町で始まった一つの運動であります。

ポール・ハリスという37歳の弁護士が3人の友達を集めて話し合いました。一人は石炭業者、一人は洋服屋、もう一人は鉱山技師でありました。零細業者の四人は、当時シカゴの厳しい経済情勢の中で、心を寄せ合い、お互いに助け合い、みんなが隆々と栄えていくような、楽しいクラブを作ろうではないかと作ったのがロータリークラブなのであります。

1905年の2月23日の出来事であります。この出発の時点では世のため、人のためとか、奉仕とかいうことは一切考えていなかったのであります。

みんなが心を開き合って、隆々と栄えていくためには、同業者を排除しよう。自由競争のもとではお互いが食うか、食われるかの関係にあって、同業者がいるとどうしても心を開くことが出来ない、同じ業界でありますから、いい事も知っていますが、醜いことも汚いことも全て知り尽くしている。あいつは俺の欠点を知っているなと思うと、心を開くことはできない。そういうことから一つの職種から一人だけ会員を選びましょうという形で出発したのであります。みんながお互いに助け合って栄えていったのでありますが、もっと会員を集めようということになった時点で、何をセールスポイントにしたらよいか分からぬ。一応誠実な人間の集まりということで出発をしていったのであります。その頃のロータリーは自分達のことしか考えない、正にエゴイズムの団体であったのであります。

ところあがる時、ドナルド・カーターという弁理士さんにクラブに入らないかと誘ったところ「確かに君達はそれでいいだろう。しかし一つのロータリークラブには同じ職種の人が一人しか入れないとしたら、ロータリークラブに入れない同業者はどうなるのか。職業を持たない地域社会の人達はどうなるのか。私達は地域社会で生まれ、お世話になって生活をしているのだ。その地域社会になんらの足跡も残さない、何の恩返しもしないで、自分達だけが栄えて、この世を去るという寂しいいき方は俺はごめんだよ。そういう団体は長続きはしないだろう」と言って入会を断ったのであります。

その報告を聞いて、いたく反省したのがポール・ハリスであります。「彼のということは本当だ。クラブのいき方を変えよう」というので、それから世のため、人のためのことを考えるクラブになっていったのであります。

カーターの予言した通り、世のため、人のためのことを考えるようになってから、ロー

タリークラブはどんどん発展をしていきました。今では全世界に29113のロータリークラブがあります。そして全世界にロータリアンが120万1595人おられます。これが自分達のことだけを考えていたのであれば、ロータリーはシカゴで生まれ、シカゴで消えてしまったことでしょう。その後、世のため、人のためのクラブであるなら全アメリカに、そして全世界の地域社会につづつロータリークラブを作ろうというので、発展していったのであります。しかし、ここで大変大事なことはロータリーはクラブとして出発したのであります。みんなが平等対等であり、本当にリベラルな社会であります。だからこそ、これだけ大きくなっていったのであります。上位下達の縦社会、権力の組織であれば、ここまで大きくはならなかったと思います。

ロータリーは何をするところか？ ロータリーとは何か？ ということについては随分いろんな考え方がありまして、人によって答えがいろいろ違ってまいります。

ロータリーというのはロータリー運動という一つの運動体であります。ロータリー運動というのは、ロータリアンに奉仕の心を植えつける。このことによってロータリアンの一人一人が自由に世のため、人のために動いていくだろうという考え方をとっております。

皆さんに用語の解説というのが配られておりますが、現在全世界に120万1595人のロータリアンがおられます。ロータリーではこのロータリアンが一番大事な財産なのであります。「ロータリーというのは一人一人のロータリアンの心の中に宿る」と言い切った、エド・マクローレンという国際ロータリーの会長（1960年）がありました。いろんな考え方のロータリアンが何十人か集まってロータリークラブという組織を作ります。そのロータリークラブが全部集まって、国際ロータリーという世界的な組織を作っております。ロータリーの媒体で大事なことはロータリアン、ロータリークラブそして連合体としての国際ロータリーで組織されています。

国際ロータリーの会長をR I 会長。R I とはRotary Internationalの略であります。世界全体のロータリークラブを527の地区に割って、その地区に国際ロータリーの役員としてガバナーが一人ずつおられます。そして地区内のクラブを管理していくという形になっているわけであります。

地区委員会というのはガバナーの補佐機関、ガバナーがいろんな意見を聞きたい時に委員会に諮問をして、委員会が具申する。言ってみればシンクタンクのようなものであります。決議機関でもなんでもなく、ガバナーの信頼出来る人達を委員に選んでいます。このRYLAも、本来ガバナーが一人ですべてやらなければならないのですが、それは到底出来ないことですから、委員会に補佐を頼んだり、意見を聞いたりして実施しております。

インタークトクラブというのはロータリアンが自分達がクラブという制度で心を磨いていくというのは大変良いことだという実感から、若い人達にもクラブ制度のよさを味わってもらおう。そして奉仕のエネルギーを培ってもらおうと1962年に出来た制度であります。14歳から18歳のだいたい高校生の年齢の人達で組織されております。

オリエンテーション

ローターアクトクラブというのはもう少し年上、18歳から30歳の青年男女で組織されています。これもロータリアンと同じようにクラブライフを味わって、そこから奉仕のエネルギーを引き出してほしいというのがローターアクトクラブであります。

このRYLAは今から21年前にここにおられます今井鎮雄先生がこのRYLAの基本構想を建てられました。それは例えばYMCAでも、ボイスカウトでも、青年団でも青少年の指導者を養成するプログラムはみんな持っている。同じような形でロータリーがやることは全く意味がない。ロータリーがやる以上はハイレベルのものを作ろうということから出発を致しました。ハイレベルのものとはどこに重点を置くかと申しますと、ロータリーの第一義が心の開発でありますから、技術的なものを習得したリーダー達にもう一歩上に高めるような高い境地を求めていただけるような、心の開発に重点を置いたプログラムを組んでおります。午前中は2時間ないし2時間半、全て専門の先生に来ていただいて、講義をしてもらいましょう。そして他の時間に徹底的に理論をすることによって皆さん方の心を培っていただきたいとプログラムが設定されています。

また、このRYLAの特徴として、カウンセラーのシステムをとっていることであります。しかもカウンセラーはロータリアンとロータリアンの奥様でなければならない。これはカウンセラーとしてプロであるということよりも、ロータリーの主催するプログラムでありますから、ロータリーのことを皆さんに分かっていただきたい。ロータリアンやロータリアンの奥様との人格の触れ合いの中で皆さん方と3泊4日を過ごす。そこにRYLAの一つの効果があるだろうと考えております。

もう一つの特色はみなさんは20歳以上であります。リーダーとして一人前の人でありますから、私達はみなさん方を全面的に信用しております。いろんな指図は一切しません。みなさんの完全な自律の上にこのプログラムが組まれております。自律ということはこのRYLAの大変重要な要素になっております。みなさんのリーダーとしての良心に一切をお任せします。しかしみんなで何かをする時だけは時間を守ってください。そしてこれはあくまでも心の開発が第一です。いろんなプログラムが組まれていますが、その事を心にとめておいていただいて、出来るだけ楽しく、そして得るところがあれば地域を持って帰ってください。私達としましてはこの3泊4日の内でみなさんの心の中に何か火が灯るかもしれない。地域に帰ってから灯るかもしれない、あるいは灯らないかもしれないけれど、未来のためにその種だけは蒔いておきたい。今度の国際ロータリーの会長ジェームス・レーシーさんは「ロータリーの夢を追い続けよう」というテーマを出しておられます。我々は未来のロータリーのために、夢を追い続けるためにRYLAを開催しているということを心に止めておいていただきたいと思います。

ロータリー用語

☆地区 District

管理の便宜上、国際ロータリー（Rotary International 省略してR. I. ということがある。）理事会で決められた一群のクラブの所在する一定の地域をさす。地区にはナンバーがあり、四国4県で1地区となっており、これをR. I. 2670地区・兵庫全域で1地区となっており、これをR. I. 2680地区と呼ばれている。

☆R.I.会長 国際ロータリーの最高責任者で任期1年。その就任に際し、1年間のモットーを発表し、ターゲットを出す。

今年度（1998年7月～1999年6月）はJames L. Lacy（アメリカ合衆国）氏が会長を務め、ターゲットは“FOLLOW YOUR ROTARY DREAM” ロータリーの夢を追い続けようである。

☆ガバナー Governor

地区的指名委員会手続きによって指名され、国際大会で選挙された、地区内における国際ロータリーの唯一の管理役員。今年度のR.I.2670地区ガバナーは佐々木善堯氏（西条）R.I.2680地区ガバナーは谷水清司氏（神戸西）である。

☆ガバナーのミニー

指名委員会手続きにより指名されたガバナー被指名者のこと。国際協議会でガバナーとしての研修を受けなければならぬが、それを受けた後、インカミングガバナーと呼ばれ、ガバナー就任直前の国際大会で選挙された後、ガバナーエレクトと呼ばれる。

☆パストガバナー

ガバナーを終わられた人に対する呼称。

☆ロータリアン

ロータリークラブ会員。会員になるには、各クラブにおいて一業一人の原則とその他の資格要件をクリアして入会

した人。

ロータリアンは一人一人が自己研鑽することによって、自らが職業人として、社会人として、世のため、人のためのよい影響を与えるよう努めている。

☆ロータリークラブ（RCと略されることがある）

奉仕の精神を各人の個人生活・事業生活および社会生活実践の基礎とすることに同意した、事業および専門職務に携わる人によって出来たクラブ。その第一標語は

「超我の奉仕 Service Above Self」である。

会員相互の親睦より誕生したロータリークラブでは良質の親睦を大切にしている。

☆地区委員会

R.I.・地区・クラブ夫々にロータリー活動を推進するために委員会を持っている。

このRYLAは地区の青少年活動委員会のプログラムであり、直接には青少年活動委員会に属するRYLA委員会が担当している。

☆インターラクトクラブ

ロータリークラブが提唱する、ロータリーの心で奉仕と国際理解に貢献する青少年のための国際的な団体。14歳～18歳までの青年によって構成されている。

☆ローターアクトクラブ

ロータリークラブ提唱の18歳～30歳の青年男女によって構成される世界的青年団体のクラブ。目的は個々の能力を開発するための知識や技術を高め、地域社会の社会的ニーズを取り組み、親睦と奉仕を通して、よりよい信頼関係の推進に努める。

「私 の 人 生 觀」

私の人生体験からの提言

グローリー工業株式会社会長
(姫路南RC)

松 下 寛 治 氏



私、社会人となって50年になります。この間、いろいろなことがありましたが、きょうは出会いの大切さを中心にお話ししたいと思います。

ここに神渡良平先生が幕末の儒学者、佐藤一斎先生のことを書かれた本があります。佐藤一斎先生は、陽明学を信奉し、弟子に佐久間象山、さらにその弟子に坂本龍馬、勝海舟、吉田松陰をはじめ数千人のお弟子がいて、明治維新をやり遂げた志士たちの精神的支えとなった人です。

佐藤一斎先生は言志四録という本を書かれていますが、その中で、太上の人は天を師とし、その次は人を師とし、その次は経（書物）を師とする一と書かれています。

佐藤先生の生まれ故郷で2年ほど前に、顕彰碑が出来ました。その碑文にこうあります。
「少くして学べば即ち壯もうにしてなすなり。壯にして学べば、老いて衰えず。老いて学べば死して朽ちず」

また「人はまず長所を見るべし。欠点を見てはいけない」とも佐藤先生が言っておられる一と神渡先生は感情をこめてこの本の中で書いておられます。神渡先生の本は資料のラ列ではなく、人間学の本としてすばらしく、ぜひ一度お読みになって下さい。

**原理原則を教える先生
直言する側近を持ちなさい**

次に伊藤肇先生についてお話しします。先生は陽明学の大家で、戦前戦中戦後を通じて、

<松下 寛治氏>

大正12年兵庫県生まれ。昭和19年大阪工業専門学校原動機科卒業（現大阪府立大学）。昭和23年株式会社国榮機械製作所（現グローリー工業株式会社）入社。

昭和55年代表取締役社長に就任。平成元年代表取締役会長に就任。

昭和60年社団法人兵庫工業会副会長。平成4年姫路経営者協会会長。平成9年学校法人獨協学園理事。

紙幣・硬貨処理技術の開発育成と産業界に尽力した功により、平成6年勲三等瑞宝章を受章。

軍人や政治家が教えを乞うた安岡正篤先生の門下生となりました。その伊藤氏が「現代の帝王学」という本の中で、安岡先生のことばとして次のように解説しておられます。

1. 原理原則を教える先生を持ちなさい。いつまでも世の中で変わらぬものがあります。
2. 直言する側近を持ちなさい。ワンマンになってはいけない。クビを賭けてでも直言する部下を側に置きなさい。
3. 優れた幕賓—すぐれたブレーンを持ちなさい。

私も、これらの教えに助けられたことが何度もあります。

感動のない人は人生の失格

出会いが人生を根底から変える

また会田みつおさんという人が「一生感動一生青春」という本の中で「その時の出会いが人生を根底から変えることがある。よき出会いを」と書かれています。

そして「あの時、あの場所であなたに会っていなかったら、私たち2人の今の生活はなかったのだなあ。2人の出会いの尊さ、不思議さを、感動深くかみしめてほしい」と若い人たちに贈ることばを書いておられます。

感ずるものに感じない人は人間失格です。

出会いを大切にするには

謙虚、求める気持ち、問題意識

私は23年にこの会社へ入りました。当時は70人くらいの下請けの町工場で、給料も遅配がち。ただ仕事を覚えるのに一生懸命の時期でした。まさかその後、社長一會長になろうとは思いもしないで。私が今日あるのは、素晴らしい上司、先輩、社外のプロの先生との出会い、ご指導によるものです。

そこで私が出会いについて言いたいことは、出会いといっても、ただ会って別れるだけでは何にもなりません。出会いを大切にするにはまず

1、謙虚でなければいけない

2、求める気持ちがないといけない。そのためには問題意識を持つことが大事だと思います。

私の経験でも、困った時に出会いがありました。その出会いをつかむことが大事です。自分だけの力など知れたものです。

オーナーに教えられた

企業家精神

私の体験をお話します。まず上司との出会い。それはオーナーの尾上壽作さんです。相談役になられ、先年亡くなりましたが、このオーナーが何とか下請けから独立したい、といろいろ失敗も重ねながら努力をして、昭和28年に硬貨計数機の国産第1号をつくれました。

これが基本になって、わが社が業界のトップメーカーになったわけですが、尾上さんは

さらに、うちが下請けをしていた親会社の三井造船のエンジニアの山下さん（後の社長）に相談し「自動販売機をやっては」といわれて、それが実現し、33年にタバコ、チューインガムの自動販売機をつくりました。

私がオーナーに教えられたのは、当時の経営者はみな若かったのですが「企業家精神を旺盛に持て」ということでした。そしてたえず新商品の開発を心がけよと。経営者としての基本的な考え方を徹底的に仕込まれました。

ハラを割って徹底的に話し合う 石田さんから学んだ人間学

次に教えられたのは三井造船のエンジニアで定年退職、我が社の取締役工場長になった大久保延三というすばらしい人ですが、この人に「技術はゴマ化しがきかぬ」ことを徹底的に教えられました。

それから、石田進という人。この人は昭和35年に、うちの社長が常務取締役として招いた方です。この方は元学校の先生でしたが、意見が合わず、校長の頭を殴ってやめ、民間会社へ入ったが、ここもつぶれて、経営者協会に勤められました。私はこの方から人間学を学びました。私はその後、年をとってからいろいろ勉強もしましたが、それまでは石田さんが先生でした。

石田さんは総務、人事、労働を担当されました。中小企業の経営者協会では当時は戦後間もなく、激しい労働争議がくり返されましたが、労働組合とハラを割って徹底的に話し合っているうちにだんだんお互いに理解できるようになってきました。

石田さんが平成2年に亡くなって、7回忌の時、石田さんが小まめに記録したメモなど、ぼう大な資料を集約して本にまとめました。「愛語—あすを拓く言葉」という本で、社員全員と子会社の幹部にも渡しました。

石田さんは「国を亡ぼさんとすれば歴史を断て」と中国のことばを書かれています。

戦後の日本はこれをやられました。日本の歴史は全部間違いだと左翼から言われて、それを米国にあと押しされ、これで日本の教育がガタガタになりました。「歴史」がなくなり「社会」になって。

ねたみ・うらみ・しっとは自分の成長の妨げ

私が一ついいたいのは、この本の中で石田さんは「心の持ち方一つで、将来立派な人になるか、普通の人になるか、ダメになるかがきまる」と。

そして「ねたみ・うらみ・しっ」とは自分の成長に何のプラスにもならないと書かっています。

京セラの名誉会長の稻森さんは最初7人で始めた企業を今の大会社に発展された方が、稻森哲学として社員の心がまえを書いておられます。

その中で、(能力×熱意×考え方) という方程式で、マイナス100からプラス100で表し

て説明しておられます。

能力と熱意は0～100点。考え方-100～+100点なので、いかに能力と熱意があっても、考え方方がマイナスなら、結果は全部マイナスとなります。この考え方は、石田さんの考え方と通じるものがあります。

その中で、世の中をうらんだり、まともな生き方を否定するような考え方はマイナスだといっておられます。

教育の原点は愛である

友と交わるには三分の侠気・一点の素心

中国の菜根譚の本の一節に「友と交わるにすべからく三分の侠気を帯ぶべし。人と成るには一点の素心を存するを要す」という言葉がありますが、本当の親友となるには三分の侠気（おとこぎ）、損得抜きで協力しようとゆう気持ちがないとダメですよ…このことは人間関係を作る上でも大切なことだと石田さんはよく力説されていました。

私は教育の原点は愛であると思っています。この人間を一人前にしてやるには、今ここで言ってやらないと、と思って意見もする。それも人間関係があってこそ、効果があるのです。だから、私のモットーは誠実、努力、忍耐、情熱です。

1カ月好きなことをやらせる

何をやっても良い、30万円支給

私の社では人材育成に力を入れていますが、中でも変わったやり方を一つご紹介します。

それはE-CAP（エンジニア・クリエイティブ・アバンダント・プロモート）といいます。

エンジニアで10年以上の勤続で35歳まで、1年に3名、1カ月自分の好きなことをさせる。30万円支給。足らずは自分で費用を負担せよーというものです。

社員にドラムをたたくのがいてぜひ本場をみたいーと、ニューヨークへいきましたが、そこでのレベルが高いのに大変感銘を受けたといいます。

そして1カ月間をムダにせず、あらゆる所で見聞して帰ってきました。度胸と勇気をもって人生に立ち向かえるようになった、と本人も報告し、上司に聞くと、協調性、積極性が目立つようになった、とのこと。

この制度は目下3カ年、9人が“卒業”したことになりますが、みんな「会社の経営が厳しくても続けてほしい」といっております。自分を見つめ直す良いチャンスになるようです。

プロの先生の現場指導で みるみる明るい職場に

次に私が昭和55年、社長に就任した時、二つの課題がありました。一つは株式の上場です。これは58年に大阪2部に上場できました。

もう一つは上場したけれど、その後、流れにのみ込まれるようでは大変で、緊急対策

を立てる必要がありました。上場会社にふさわしい活力ある企業体質に改革することでした。

そこで日本一流のプロの先生をみつけてきて、現場指導をしてもらいました。よりよい品質を（Q）より安く（C）より早く（D）これが徹底すれば活性化が図れます。Qについては水野滋先生（東工大名誉教授—TQCの世界的権威）Cについては新郷重夫先生（IEの世界的権威）のご指導を受けました。

新郷先生によれば

- ①問題に対して、why why why。徹底的に目的を追及せよ
- ②目的が分かれば、手段・方法はいくらでもあるだろう。自由奔放にアイデアを出せ
- ③唯一最善の方法を考えよ。見つけたらただちに実行を

でした。これで、みるみる職場が明るくなり生産性が高まりました。両先生との出会いは、わが社にとって大きな発展の基礎を固めたものと思います。すばらしい出会いでした。

基礎づくりへ中央研究所 就労5日制も制定

62-63年に円高不況がきて売り上げが落ちた時代があります。

社長として、会社活性化のために何をなすべきか。私は、このように考えています。

トップとして必要なのは、先見性と決断力、健康、情報と国際感覚、率先垂範。

その決断する時の判断の基準は

- 1、目先にとらわれず長い目で見る
- 2、物事の一面をとらえず、多角的にみる
- 3、枝葉末節にとらわれず、根本的にみる

これは安岡正篤先生の意見です。

昭和63年、社長をゆするまで、いろいろやりました。バブル崩壊後、市場成熟化、グローバル化を迎え、競争激化の中、平成不況が続いているが、わが社ではこの不況を乗り切るため、構造改革に取り組んでいます。たとえば将来のための基礎づくりとして中央研究所をつくるなど新しい事業も芽生えてきました。ここに人を収容することによって、簡単には人員整理はやりません。それが日本の経営だと考えております。また人材育成にも一段と力を入れていますし、コストダウン活動も多岐にわたって実施しています。

それから、就労5日制（よそでは週休2日制といってますが、うちでは“就労”です）をとったこと。初めは隔週で、のち全週としました。これは労使の信頼性につながることです。

雇用の確保、人材の育成 企業として地域への貢献

あと、地域のため、当社が社会貢献をしてきたことについて、少しお話しておきます。ロータリークラブで本当の奉仕ということを学ばせてもらいました。職業を通じて社会

奉仕をする。その一つとして小学校育成財団をつくり、オーナーと会社とが出資し、プロによるぬいぐるみの子供劇場を公演し、親子3200人を無料招待しました。

また8月には科学体験教室といって、道具を提供して、子供たちに創作して動くものを作らせる。そして賞をあげています。

そのほか、囲碁、将棋、テニスを子供たちに教えるとか、姫路の三つのロータリーがやっている少年剣道大会に協賛して、うちの道場を使ってやってもらっています。

でも、最も地域に貢献していることは、雇用の確保、人材の育成です。地域への貢献とともに、これがうちの会社を支えているのです。

出会いに感動を 人生に生かせて

きょう、ここでは「出会い」の大切さについてお話ししました。私も、いろいろな出会いがあって、今日の私、今日の会社があるのだと思います。自ら謙虚で求める気持ちを強く持ち、それも感動をもって人と接することが大切です。

どうか皆さんも、この3日間で一つでも自分のものとしていただきて、感動を覚える出会いがあれば幸せです。あすからの人生に生かして下さるようお願いして、私の話を終わります。



ロータリアンの集い



受講生、余島に到着

キャンプファイヤー

参加者一人ひとりの願い

キャンプファイヤーでのひとこと

テーマ

私達の住んでいる地域社会に
私達はこんな夢を持っている

- * 都市開発もいいが自然をもっと大切に。
- * 他の市町村といっしょにそれぞれの町に、ホールや競技場、レクリエーションの場をつくって、他の大きな町にまけないようにしてほしい。
- * 自然が多いと、移住してくる人が多い街なので、地元の人が少ないので、街が一体となって、人と自然のくらしを考えている今の状態がつづけられれば住みよい街ができると思う。自然も人も多い街にしたい。
- * 真に住民が望む物・事が住民の声によって実現できるような町になってほしい。
- * せまい地域なので、大都市と比較すればマシなんだろうけど、学校教育の現場に地域がもっと介入して欲しい。個人として何か追及するだけでなく、「地域が子どもを育てる」意識が広く浸透し、実践できれば、もっと住み良い町になれると思う。
- * しまなみ海道開通に伴う情報化、流通の発展と活性化。
高齢化社会（弱者）に対応できる福祉都市、地域のネットワークの密接化。
コンピューター社会にとり残されないための教育改革。（文部

省でH14年までに2人に1台のパソコンを学校に設置すると決定されたため、各学校での授業への活発な取組みを期待する。)

- * 老人、子供が安全に遊べる施設の設置。風俗業界への徹底した監視。ゴミバコ、はい皿をふやす（ポイステ防止のため）
- * ゆずり合いの気持ちを持った街づくり。例えば、ポイ捨てや違法駐車など自分のわがままで他人に迷惑をかけたりとかせず、お年寄りや体の不自由な人が困っていたら、すぐに助けてあげれる街ができたらいいと思います。

* 一人ぼっちのいないあたたかい地域になってほしい。（していきたい。）（老人の孤独死、子供が一人で悩むことのない地域社会になって欲しい。）

- * • 近所の人同士とても仲良くなり、お互いの家でホームパーティーやバーベキューができる地域社会。
• 地域の子どもやお年寄

りが共に集える社会。

- * 福祉施設の充実とともに施設に入っている人がある程度自立して生活できる環境作り

* • レジャー施設とかをいろいろつくって若い人たち



- が一度外にでてももどってきてきたいなって思う所にしたい。(自然とか、都会にないものを利用したり等)・船などの交通手段とかをふやしてほしい(便利に)
- *気軽に公民館に来やすい環境をつくりたい。公園で遊んだ後でも、これから遊ぶという時でも……。
- *若い人が住みやすいまちづくりをしたい。
- *・交通網整備・レジャー施設(老若男女問わず)
- *自然と共存する社会
- *生涯を通じて誰もが楽しく過ごせる施設等が増えればいいなと思う。
- *人と人とのかかわって生活を送れる地域社会になってほしい。また、そういう社会にしていきたい。
- *すれ違いのない心のあふれる泉を皆でつくり上げる事。
- *生涯スポーツの推進を目指し、スポーツをすることにより、地域住民の健康の保持増進を確保すること。住民それぞれが、楽しく、笑ってスポーツができるためのスポーツプログラムの作成をすることも合わせて進めていく。
- *平和に暮らせればよし。もっと子供たちと共に野外活動ができる場所が増えればいい。そしてもっといろいろな事を子供に伝えたい。
- *何もない所なので、住んでいる所はいいところだなと思う人がふえて人口が出ていくのが少しましになって、町に入ってくる人ともかかわりのある地域。広いかかわりがほしい。
- *渋滞知らずの街にしたい。
- *景気回復
- *今より住みやすい町にしたい。

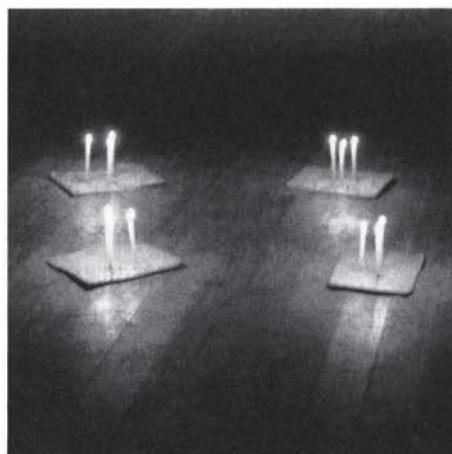
- *観光地(名所)が欲しい。(・地域の活性化・人とのふれ合いの場として)
- *地域 家庭 学校→地域 家庭 学校 三つが接点のあるように
- *レジャー施設を充実させ明るい町にしたい。
- *道路をもっと整備してほしい
- *都市開発(あそぶ所、食べる所など若者が来るような施設)
- *・老若男女を問わずたくさんの人達が集う明るい街づくりをしていきたい。・限りある自然をこれ以上人工的に削除してほしくないので、次世代まで美しい自然を残していきたい。・未来をなう子供達により良い環境で、良い教育を与えられる様にしたい。
- *世界の文化遺産である姫路城が現在のままで存続しつづける社会であってほしい。
- *異なる価値観・考え方を持った人々がお互いを認め合い、助け合ってゆける社会になれば良いなと思います。
- *だれもが一生涯安心して暮らせるよう、福祉面(施設サービス等)が充実した社会にしたい。
- *マナーと礼節。遊ぶところがほしい……or 交通の便がもう少しよければ。
- *自然がいっぱい森にかこまれた街にしたい。
- *老人の方が、イキイキと暮らせる環境。生涯学習の充実や、スポーツをする場所の提供、趣味に関する教室を開く等。
- *近所に住む人たちがたまにだれかの家に集まりみんなが笑顔であふれている、そういうみんなで大家族のようなつながりがあればいい。
- *みんなが少しずつやさしい心を出しあって足りないところを補いあえるような社会が

理想です。誰しもいつ困った状況に陥るかわからない。見返りを期待するわけではないけれど、「困ったときは助けてくれる人がいる」という安心感をお互いにもつことができるよう、何か自分にできることがあれば、積極的にやっていきたい。みんながそういう気持ちになれたら自分の住んでいる地域社会のことをもっともっと好きになり、誇れるようになると思います。

*私の生まれた所（今住んでいる所とは別）は、山の近くで、田舎です。もうすぐ高速のインターチェンジができる、町全体で、活性化をはかっている途中です。でも、私は今の町の雰囲気が好きなので、あまり変わってほしくない。たまに実家に帰ると、安心するし、結婚して子供を育てるなら、こんな所がいいなあと思うし。だから、町おこしをしながらも、雰囲気は変わらず、いつまでも帰郷すると落ち着ける町を保つことが夢です。

*いなかなのでいろんなうわさ話とかが、大好きで、すぐに悪口とかいってるおばさんをどうにかしたい。昔は子供会があったのですが、今はなくなっているみたいなのでもう一度復活させたい。

*①道路の設備をもっと使いやすいようにして、渋滞をなるべくなくしてもらうようにしてほしい。②地域ごとに車がのり入れ可能な広場のような所をもっとたくさん作っ



てほしい。（24時間使用可能な所）

*Jリーグのチームをつくってナイター付きの競技場を作ってほしい。スポーツとかで文化中心の街にしよう。

*高松市は、「サンポート」計画をし、地域の活性化や、そ

れにともなう利潤追及を試みています。この計画により、立ち退き問題や、環境問題も発生している現状で、お互いの立場から、よりよい条件で話が進み、住民全てが「サンポート」ができてよかったです、と思えるような開発をして欲しいと思っています。もちろん、サンポートにより、観光客が増加し、街全体に利益がでれば、笑顔の絶えない街に自然となる日がくるかなぁ……。

*これから、超高齢化社会がやって来ます。医療も昔から比べるとどんどん進んでおり、介ごする側される側も今以上に年齢が高くなり、それぞれが精神的にしんどくなる場面がたくさん出てくると思われます。そんな際に、息ぬきを兼ねた地域の子供たちとの交流（一緒にうたったりなど）することで、リフレッシュできたり、孫を見るような温かい気持ちを思い出すような、交流の場をどんどんふやせたらと思います。子ども達も核家族が進み、高齢者から学ぶことが少なくなっていると思うので……。

「生 き る」

あなたのが自分が自分より大切に思える旅に出る

四天王寺国際仏教大学講師
楽団あぶあぶあ 主宰

東野 洋子氏



人生にはいつでもあしたがあるのです。どんな時にあしたがあるのか。それは「あしたがほしい」と思った時にあるように思うのです。

あした何かにつなごうと考えている人には、あしたがあります。あしたは永遠だと思っています。私たちの夢や思いはつながっています。私は以前、私の思いは私1人のものと考えていました。でも、私が何年も前にこのRYLAで先輩たちからの夢を受けつぎ、それを、今私が大学の授業などで若い人たちにその夢をつなげています。

人間の楽しいことは、つながっているということです。そんなことをイメージしながら、きょうのテーマ、大変おこがましいテーマですが「あなたのことが自分より大切に思える旅に出る」ということについて、みんなで考えたり、感じたりしながら過ごしたいと思います。

人類の夢をつなぐ まず分かち合うこと

きょうは三つのことをお話ししようと思います。

- 1) その一つは私たちの夢は、旅は、どこからつながって、どこへつながっていくのか。
- 2) その夢を、体の不自由なこのプレーヤーたちの夢と、私たちがどこが同じで、どこにつながっているのか。彼らは何を、みんなと一緒にやとうとしているのか。

3) 最後にみんなで助け合っていくということは、どういうことか。どうやって助け合っていくのか。助け合うということは同じ夢を共有しているということです。

さて私たちの夢はどこから一ということから始めます。

人類の祖先は、いつごろから、ほかの動物と違うようになったのか。それは火を使い道具を使うようになってからだといわれています。黎明期と呼ばれます。

何のために道具を使い、火を使うのか。生きるのが便利になるからです。最初は食べ物を取るために。火を使うのは食べ物がふえるということです。そして仲間と一緒にチームを組んで道具を使うということは生きる力が増すということです。

そして私たちの先祖は1人でも多くの人が、1日でも長く生きるために、ほかの動物と違ったことを始めました。

それは、一つのものを見るのにみんなが力を合わせ助け合った。たとえば狩りで。一緒に獲る、それを1人占めしないで分かち合ったということです。

今、私たちが今一番大事にしようとしているその夢は、人類が動物から人間になった時、最初にやっていたことなんですね。

楽しい時を分かち合いたい 食べ物は十分なんだから

ここにいる人は、だれでも1人では楽しくない。私たちは食べ物だけでなく、時を分かち合いたいのです。それも楽しい時を。

今のわれわれは、食べ物は十分あるので、心の時を分かち合いたいのです。

十分にあるといっても、最近のことで、たかだか100年、50年前はまだ無理でした。戦争もありましたし、楽しい時を分かち合う時間は、ほんのわずかしかありませんでした。ここまでくるのに人類はどんなことをしてきたのでしょうか。

ネアンデルタール人なんかの時代の遺跡からは、いろんな道具などが出て、研究の対象になるわけですが、ミイラも出ます。そのミイラの骨を見てみると、骨に障害のある人、老人の骨が、壮健な人の骨とともに一緒に丁寧に葬られているのです。花もたむけられている様子です。

十分に食べることがむずかしいきびしい時代に、ハンデキャップを持つ人や年寄りを抱えたグループは、大きい危険にさらされていましたはずです。何のために連れて歩いたのか。それはそれらの人なりに、値打ちがあったからです。

どんな値打ちが……。たとえば今、老人介護とか福祉を考える時、どんなことを感じますか。

私も祖父や祖母の面倒をみたことがあります。祖母はみんなの世話を受けながら、痴ほうとなり、寝たきりで、私がだれなのかも分からなくなつたのですが、だれにでも「ありがとさん、ナンマイダ」といいました。そのうち「ん」と「ダ」しか言えなくなりました。

それでも、この人の値打ちに私は生きる値打ちを感じます。人は具体的に他人に何も教

えられず、痴ほうになっても、その人の存在を通して人のためにつくすことを考えるのが老いていくということだと思います。

生きていくのが厳しい昔の時代にも、人はそのことに気づいていたのだと、私は体験を通じて、そう思います。

私の幸せを願ってくれる他人がいる

ハンデキャップのある人はどうだったのでしょうか。昔は医療がないから、多分早く死んだでしょう。長生きしない、ハンデが重い。まず食べるため、一つのリンゴを3人で分けてでも生きなければならない厳しい時代にも障害者をかかえて生きてきたのです。

それは、どんな値打ちがあったからか。私の夢とどうつながっているのか。それはのちほど「あぶあぶあ」の彼らが直接語ってくれると思います。

私にとって、彼等に会わなかった人生は考えられないのです。そんな彼らから私がもらっているものは何か。の人たちは私の幸せを願っているのです。それもただ願っているだけです。

私はこれほど強い力で、裏切られることもなく、自分の幸せを願ってくれる他人がいる—という事実に出会ったことはありません。それも1日や2日でなく、もう17年です。私は働く気力、生きる気力がおこります。生きる意欲が大事だということに気づきます。

生きていくと、きっと楽しいだろう。それは自分が生きていくことの楽しさを望んでくれている人たちがいる。だから私も生きるのです。生きる意欲を感じます。

力のある人は重い物を持ち、頭の良いひとは考える。それは分業です。が、ここで原点にかえらねばなりません。あなたの幸せを、自分と同じように願うこと。一つのリンゴを1人が食べて3日生きるよりも、3人で食べて1日生きようとする原点に。今の私たちは忙しくて、それを忘れてしまうのです。

幸い私たちは、からだが不自由な人を友人に持っているので、彼らが、原点にかえることをいつも教えてくれます。

人類の夢、最初に心があった それが奪い合いに

そういうわけで、人類は夢をいだきました。最初に心があり、物を分かち合う心、それが人類の始まり、私たちの始まりです。

それにしても食べ物が少ない。そこで、いろいろチエを求め、それを蓄積します。このタネをまくと、同じものができるらしい。雲の動きと雨。農業の始まりです。いろんな学問が始まります。原点にかえるのを忘れるくらい忙しく。

近年はより効率よく食べ物を得るために、高い能力がどんなに必要かと考えて、みんなが学校へ行くようになるのです。

ところが、あんなに分かち合って生きてきた人類が奪い合いをするのです。食べ物の奪

い合いが最も激しいのです。何度も戦争がありました。

人は協力しないとやっていけないからシマを作ります。国境とか宗教の壁とか。奪い合をしたくないから一生懸命勉強します。

私は力の強い人は体を鍛えて役に立ててほしいと思います。知的障害の人の中でも力の強い人がいて、よく荷物を持ってくれます。荷物を持てない人は荷物を持ってもらいますが、「そこは危ないよ」とか、励ましてくれる人がいます。それぞれ役割りを果たします。私たちは余りにも合理的なところに集めすぎたのかも知れない。でもそのお陰で、みんな食べることを心配しないでここにいるのです。

効率よくたくさんの物を生み出して分かち合うこと、これは大昔から的人類の夢でした。そのために生まれた学問や科学を結集してこうなったのです。

人類の流れの中に私が 私たちは人間なんだ

しかし、それもほんの50年—100年前のことです。そして、地球上の全部ではないのです。みんなはたまたま豊かなほうのここに生まれたのです。

ところが今、私たちは何かをとまどっています。人類の夢がかなえられたというのに。それは多分、私たちが人間だからです。豊かになることが目的だったのではなく、分かち合うことが目的だったと、先祖は考えていたのだーと私は思うのです。

自分の知っていることをあなたに教えて、あなたの幸せを願ってますよ、という範囲でなく、大きな視野で見ると、人類の先祖から未来へかけて、全部ひっくるめて、大きい人類の流れの中に私がいることに気づきます。

私が受けとったものは、何千年前から的人類の夢です。この夢を自分の中で温めて、広げて次の人に渡すのです。5,000年前の人から、私へ、あなたへ。

相手の喜びを大事にする気持ち テーマはいつも「共生」

ことしのRYLAのテーマは共生ですが、いつもテーマは共生なのです。あなたに受けとめてほしいその力は自分のものでなく、もらったものです。

ところが、先祖からもらったものにカスミがかかって忘れてるらしい。食べるものがたっぷりあると分かち合うためにがんばってきたのを忘れるんです。なぜ今、福祉や介護を一生懸命するのか。それは忘れていたことを思い出させるのです。

それで、私が障害のある人たちに何かしてあげることはないか、何かできることはないかというと、衝撃的に彼らから返ってくるものがあります。彼らも「洋子さんに何かしてあげよう」と。私の喜びを彼らはきっとつかみます。私がどこで喜び、何を楽しむか、そのことの一つひとつに「良かったね」という気持ちを注いでくれます。

私が旅に出て楽しかったことがあったとしても、それは大したことではありません。私が楽しかったことを話したら「良かったね」といってくれる人がいることの方がどんなに

大事か。

家庭ではおかあさんがきっと喜んでくれるでしょう。でも一步外へ出ると分かち合いの力はぐっと落ちてくる。

その時、知的ハンデの友人たちはだれよりも喜んでくれます。大昔、そこに行き合わせた人が、相手の喜びを大事にする気持ちを私たちは失いがちですが、ハンデを負った人たちの中に、その力を持つ人がたくさんいるように思います。

私たちはパイオニア

分かち合いに専念を

大昔、一つのリンゴを1人で食べて3日生きるより、3人が食べて1日生きようという心と決断があって人間が始まったのです。

そして、分かち合う物を豊かにするために文化を受け継いで、ここまできた。私たちは先祖の夢がかなえられた世代に今生きているのです。物は十分です。どうやって分かち合う原点に立ちかえるか。人類の幸いな時期に私たちは生まれてきています。何千年も大昔から人間が望んできたことです。

だから私たちは先端を行くパイオニアです。私たちに見本はありません。でも皆さんには命も時間も両手にいっぱいです。分かち合うことに専念してもいい時代です。

昔は一人ひとりの値打ちが大きく見えました。今はすべて合理的に分担されているので、少しの分担で多くのことができます。だから一人ひとりの存在価値はすごく小さく見えます。その小さく見えるところがミソなんです。小さいのではない。新しい値打ちをみんなが持っているのです。

私たちがパイオニアだということは、先輩がいないということなので、私は知的障害の友人たちが何をテーマにしているかーと考えてみました。彼らは合理的な生産性ではエキスパートになれなかったが、その代わり小さい時から、まわりのみんなからもらったものがいっぱいあるので、みんなよりもっと分かち合いの精神を実感として知っているのかも知れません。

彼らはどんなメッセージを 大事な原点を教えてくれる

その彼らがどんなメッセージを今持っているか。それを彼等が発表します。初めての試みなので、まず私が解説します。

この人たちは、まず言語障害がひどいので言葉で伝えることがうまくできません。でもハンデの重い人は私たちの大変な原点を教えてくれます。その心をたっぷり持っています。

(以下「あぶあぶあ」のメンバーについて。楽団の17年の練習についてなど。省略)

創造的に協力していく 相手に分かる言葉で

最後に、協力するということはどういうことかーについて。

分かち合いの時代となると、協力以外に何ものもありません。人間は豊かにするために生産するシステムはありますが、分かち合うシステムはありません。昔のままです。創造的に協力して行かなくてはなりません。民族とか国境とか言っていられない。

その点、ハンデのある彼らがヒントをたくさん持っているかも知れません。まず言語。彼らは100カ国語知っているようなものです。そんな中で、彼らが協力し合うにはどうしたら良いのでしょうか。言語でなく、コミュニケーションをどうしてあやつるか。私たちが持っている表現全部からくみとるのです。それはどうして?協力をし合うために大変な創造力を発揮しなければならない一即ち、時代のパイオニアです。

そんな意味でも彼らがどんなコミュニケーションをとってきたか。彼らが分かち合いで、一番心がけたことは、伝えたいのは私であって、あなたではない、ということ。相手と協力するには、相手に分かるコミュニケーションで伝えないといけない。相手の言葉で相手に分からせるように話す。それがうまくいかなかったら、相手の気持ちを、相手の話を聞くことです。そして彼らは協力し合っています。そんな彼らと出会わなかったら私の人生は、幸せはなかったと思っています。

(以下「あぶあぶあ」のメンバーのメッセージ。それから演奏)



フォーラム

パズセッションの発表

アドバイザー

深川 純一



A班

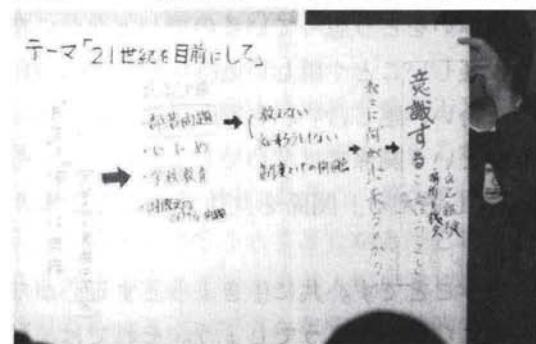
21世紀を目前にして

A班は「共生」という、あまりにも漠然とした言葉の意味について話し合いました。差別や戦争が今もなお残っている国では共生しているとは言えないという意見が出たと思うと「広い視野で見ると、人間は敵対する人とも、野生に生きている動物とも地球という星に共生しているんだ」という意見もでたりして、共生という言葉のとらえ方でなかなか話が進まなくなりました。

「共生」の意味をあいまいにしたまま話を進めていくと、差別問題の話になりました。共生を阻害する要素の一つとして、差別問題が浮上したのです。今日、存在している差別は数多くあります。部落・女性・肌の色・マイナリティ等々。その中でも私達の生活の中でも一番近いようで遠い、部落差別の話になりました。

部落差別の根源は深く、根強いものでした。そんな中で出た一つの意見は、部落差別教育のことでした。幼い子供達や世間を知らない子供達にわざわざ部落教育をして、変に部落出身者を意識させるくらいなら、部落教育は廃止した方がよいのではないかという意見でした。私はこの意見に憤りを感じました。私の通っている四国学院大学では、マイナリティや差別問題の教育に力を入れており、マイナリティ推薦があります。その中には部落推薦というのもあり、そのおかげで沢山の部落出身者と友達になることが出来ました。そうして友達になった彼らは、自分が部落出身者だということを誇りにして生活しています。

過去の問題をあいまいにして部落教育を廃止するということは精一杯部落出身者ということに誇りを持って生きている人を拒否することになると思ったのです。また、間違った事実については間違った事実として子供達に教育するべきだと思います。同じ間違いをおかさないためにも。



共生を阻害するものとして、赤道や肌の色、性別等があります。では共生を阻害する物を打破出来る方法はあるのでしょうか。赤道を消して世界統一をしますか？

世界中の人々を同じ肌の色にすることが出来ますか？

世界中の男女を統一性に出来ますか？

そんなことは出来ません。つまり共生を阻害する物を打破することは物理的に不可能なのです。しかし私達には相手のことを理解しようとする力があります。つまり、文化の違いや肌の色の違い、性別の壁などは乗り越えられるのです。お互いが相手のことを理解しようと努力すれば、差別はなくなると思います。なぜ現代人は相手のことを理解しようと出来なくなったのでしょうか。それは東野洋子先生の話にもありました。恵まれすぎた近代社会が原因ではないでしょうか。お金を払えばなんでも手に入れることが出来る。そんな平和に麻痺してしまった私達は人間本来が持っている、人を思いやる心を忘れてしまったのではないかでしょうか。私達は阪神淡路大震災でライフラインがストップし、水の大切さ、電気のありがたみ、ガスのあたたかさを痛感しました。

老人の孤独死や少年の凶悪犯罪が増加しているこの世紀末、私達は最後の警告を受けているのではないかでしょうか。大切なものを思い出すように震災のように失ってからでは遅いのです。

R Y L Aで学んだことを糧に、よいリーダーとして頑張っていくことが私達の役目ではないでしょうか。

最後にR Y L Aでお世話になったロータリアンの方々や参加の皆さんとの素晴らしい交流と学びの日々をありがとうございました。

B**班**

共に生きたいという気持ち

共生とはいいったいなんなのでしょうか。

誰かが、もしくは自分でもいいですが、だれもいない無人島へ、一人で、たった一人で渡ったとします。その人は、そこで生活していくにあたって、他の人間と共に生きることはできないかもしれません。その島にある「自然」とは、共に生きていくことになります。もし、宇宙で生活することができ、一人で宇宙にとばされたとしたら、その人は宇宙と共に生きしていくことになる。私たちには存在している限り、必然的に他のものと「共生」していることになるのか……。ここで私たちはある疑問につきあたりました。「共に『在る』と共に『生きる』の違いは何なのか。」

私たちは「友人」と「たまたま側にいる人」の違いをどう思っているのでしょうか。友達とはいろんな話をします。悩みを相談したり、楽しいことや嬉しい気持ちを共有したり、そこには心の交流があります。互いに心を通わせ合い、感じ合い、影響しあう、そういう関係こそが、「共生」すなわち、「共に生きる」という関係ではないでしょうか。私たちB班は、ただそこに在るのではなく、「互いに影響しあえる」関係を共生とよぶところから始めたいと思います。

共生の前提条件。それは「共に生きたい」と思うことです。共に生きようとする心がなければ、身の回りの全てのものは、ただ在るものになってしまうでしょう。それでは、私

たちが、この世の中にある、あらゆる人やものに対して、そのすべてと互いに影響しあうことは可能なのでしょうか？face to faceで互いに影響し合える友達との関係が、一番好ましい共生の在り方だとすれば、世の中の人みんなと知り合いになり、心を通わし合うことは不可能なことでしょう。しかし、ここで忘れてはならないのは、「すべての人と『共に生きたい』と思うことはできる」ということです。

貧困で苦しむ子供たちの姿がTVで報道されている。私がそれを見て、「共に生きたい」と思う。仕事が忙しく、実際にその国へ行って、子供たちに声をかけたり、手を取って支えることはできないので、募金をしたとしましょう。子供たちは私の存在を知りません。私も、私のお金が、誰のどんなことに使われたのかを知りません。募金は、「互いの」という部分が抜けた片道だけの思いであり、この場合「共生」とはいえないのかもしれません。しかし、募金をしたことは全く無意味なことだったのか。「共に生きたい」と思う気持ちは全く実にならないことなのでしょうか。

「影響を及ぼし合うこと」はある意味「give and take」の関係です。私たちは奉仕やボランティア活動を思い描くとき、心のどこかに「give give give」という固定観念を抱いているように思います。しかし、奉仕する側は、本当に与えるだけの存在なのでしょうか？「あぶあぶあ」の東野洋子先生はお話の中で、障害を持っている人たちから、無条件に相手のことを愛する気持ちを教えられたと言われました。私も学生時代にボランティア活動を通して、子供たちからたくさんの元気やパワーをもらいました。与えるだけでなく、そこには必ず、何か得るものも存在しているのです。

ここですこし視点を変えてみましょう。奉仕について議論をするとき、多くの人が敏感になる言葉に「～してあげる」という言葉があります。この人は、自分の相手に対する行為と優越感でgive and takeが成り立っているのでしょう。本当は優越感よりも、もっと大切な何かを得ることができたかも知れないのに、それに気付かない。そういう意味ではこの人はとてもかわいそうな人なのかも知れません。しかし、そこに何があり、なにを得られるかは誰も教えることができない。何を得るかは、その人本人が決めることだからです。「得るものは」人によって違うでしょう。物質、名声、地位、または心の糧。嬉しい、よかったですといった細やかなものから、その人の人生が変わるような大きな出会いを得るかもしれない。得るものがあったことに気付く人はラッキーです。その人たちは、大きく成長することができます。

さきほどの募金の話に戻ります。TVという一方的な情報を得て、私たちが今まで自分が気が付かなかった世界を知り、そこから何かを感じ、共に生きたいと思う。そして、自分にできることは何かを考え、募金することにした。私たちは「忘れかけていた大切なことに気付かせてくれてありがとう」という気持ちを持ち、子供たちは遠い国でも自分達のことに思いをはせてくれる人がいることに喜びを感じる……。もし、みんながこういう気持ちを持つことができたなら、間接的ではあるけれども、互いに影響し合い、「共に生き

ている」関係になるのではないでしょか。

私たちは「共に生きたい」と思っていても、共に生きるための「知識」がなさすぎることがあります。「外国のどこかの村に、その村が豊かになるように大きな工場の施設をつくったが、その村には機械を動かせる技術者がいなかった」などという話をよく耳にします。それは、何を本当にその人たちが必要としているかを知らないことから起こることなのでしょう。共に生きていくためには、共に生きていく方法も考えなければいけません。

しかし、かといって、方法のみを考えた時、私たちは大きな壁にぶちあたるでしょう。私たちは、「できる、できない」「共に生きられる、共に生きられない」という結果を先に求めすぎて、可能性の芽をつぶしてしまっている。自分以外のものに思いをはせ、さまざまのことを感じる心を持ち、まずは自分にあらゆる影響を与えてくれるそれらと「共に生きたい」と思う気持ちがあってはじめて、そこから新たな可能性が広がるよう思います。

私たちは「共に生きたい」という思いを置き去りにしてきました。しかし、そこには全てのことを乗り越える力があります。「共に生きたい」と思っても、初めは小さなことしかできないかもしれない。だけれども、影響し合い、互いに成長することで、大きな力を生む存在になることができるよう思います。B班はこれが、明るい未来を開く可能性へ続くものと考えます。他を感じる心と「共に生きたい」と願う熱い思い、「共に生きるために知識」を考える頭を持って、「行動」する力を持つ。これが21世紀における共生社会を担う人々に必要不可欠なことなのではないでしょうか。

C 班

「共生」をテーマに、全員の意見を大切にしながらバズセッションを行いました。

1. 共生とは・・・歩み寄る姿勢（人と人、人と自然、人と動物、人と物等）
2. 現在の共生社会

《共生の実現を阻害する要素と現状》

- ・高齢者・障害者にやさしくない日本（道路に面する歩道の段差、福祉にたずさわるスタッフが少ない、独居老人人口の増加）

※超高齢化社会に向けた人間の意識改革が必要、道路建設の改革、福祉ボランティアの増大、老人の住みやすい環境づくりが必要。

- ・日本工業の発達（地球の温暖化、森林の伐採）

※ダイオキシン、環境ホルモン問題に対し問題意識を持つ事により生活習慣や、社会の動きに一人一人が関心を持つことが必要。

- ・差別、偏見の社会（現在にも続いている同和問題、男尊女卑、育児問題）

※人間皆平等は勿論のこと、社会的地位や階級に流されることなく社会に全員が日本社会に貢献しなければならない。また、家庭教育・学校教育・社会教育の重要性も考え、地域の教育者を育成することも併せて必要。

- ・戦争（国と国との対立、核問題）

※人と人との争いが絶えない世の中、上記のような（※部分）理想が現実になれば戦争・対立はありえない。

3. 過去の共生社会

《現在から過去にさかのぼって阻害していた要因を考える》

- ・同和問題（宗教による対立、昔つくられた身分制度が現在にも繋がる）

・自然破壊、公害問題（環境汚染によって、人体にまで影響を与える公害問題まで発生し、工業の発展は決して人間や動物・自然にとって住み易い環境を作っていたとは考えられない）

・福祉社会の遅れ（福祉センターをはじめ、施設の充実施策がなかった。しかし、原始時代までさかのぼると障害者や老人も一般人と共に存していた社会もあったことは事実で、一概に過去を否定できない）

4. 未来の共生社会

《未来に期待すること》

- ・教育の充実（社会教育・学校教育等による地域性に合わせた学習や社会体験の場を設定する）

※思いやりを持った人の育成、震災等から心のケア、出会いを大切にする。

・自然保護（リサイクル商品=ペットボトル・ビール瓶・道路のアスファルト、環境にやさしい自動車=ハイブリッドカー・電気自動車・エコプロジェクト・GDI等）

《リーダーとしての目標》

- ・地域への貢献
- ・仲間づくり（会話等）
- ・個人の健康づくり（運動・楽しみ）

最後に、運動（スポーツクラブ等）や社会奉仕（ボーイスカウト等）を通じて人間形成をしていかなければならない私達が、その手段や方法は違っても「共生（歩み寄る姿勢）」という共通の目標を持っていれば、たとえ場所や時間が同じでなくても、今回のセミナーの成果は充分あったと思います。また、この時一緒にになって考えた仲間は、どこかで活躍してくれていることを信じています。

D 班

21世紀を目前にして、今私たちが考えなければならないのは、共生ということです。共生のキーワードを「思いやり」を持つことで実現できるのではないかと考えました。人を

主催：R.I. 第2670地区・R.I. 第2680地区・RYLA



思いやるという行為は、とても大切なことです。しかし時と場合により、自分が良かれと思いやることでも、人の価値観の違いや、タイミングにずれが生じた場合、なかなかうまく「思いやり」を伝えることが出来ません。そのズレを一致させ、共生を可能にするために人との話し合い、交流をする必要があると思います。

この人との話し合いのきっかけの場を作ろうとする人、すなわちリーダーが必要となります。しかしリーダーとは、あくまで1個人の人間であって、完全な人間ではありませんから市民と一緒に出来るだけ多くの話し合い、交流することで、市民と一緒に共生という問題に立ち向かわなければなりません。この話し合いや交流の中から、市民の意識の定着につながるのではないかと思うか。

リーダーは常に先見の目を持ちながら問題を提議し、導いていく存在でなければなりません。そこで私たちが「思いやり・交流・リーダー」ということを意識して、考えた現在の問題を取り上げてみました。

共生について深く考えるために、最近日本で重要な課題となっている高齢化社会について掘り下げてみました。ここでは、高齢者を社会の弱者と考え、たとえば高齢者を身体の不自由な人などに置き換えれば、いろいろな例で考えることが出来ます。

現 状

- ①. 介護者の高齢化…たとえば98歳のお年寄りを、病気をした76歳のお年寄りが介護し、その疲れから親子心中などがあります。
- ②. 福祉施設が十分でない…老人介護施設などでは、お年寄りの人数に対する介護の人材が不足し、最低限の食事、お風呂、おしめの交換などに追われ、3分とか5分でもゆっくりお年寄りと話し、心に届く介護はなかなか出来ていません。
- ③. 税金の使い方…高齢化問題とは、国民全体で考えるべき問題であり、当然税金がその大きな財源となるべきですが、現状ではこのような福祉に十分まわされているとは思えません。
- ④. お年寄りの価値…東野洋子先生のお話にもありましたが、原始時代よりお年寄りや身体の不自由な人と助け合って生きていたという話を聞き、そこから、お年寄りの価値が認識されていたようです。しかし、現在核家族が進み、その価値の認識と、社会の還元が十分になされているとは思えません。
- ⑤. 地域連携の不備…例えばお年寄りの孤独死、死んでから1週間たって発見されたり、また、災害でお年寄りだけ取り残されてなくなったというニュースなどから地域での連携が取れているとは思えません。

このような現状に対し、私たちは「思いやり」をキーワードに解決案を考えてみました。
未来像

- ①. 公共施設の利用…お年寄りを介護することは、とても大変なことです。介護者の高齢化が進むにつれてよりいっそう介護疲れが増えてきています。そこで介護者の息

抜きのための公共施設、例えばショートステイなどを利用できるようにしたいです。

(介護者に対する思いやり)

②. 税金、マンパワーを注ぐ…公共施設の老人介護施設に手厚く人間を配置することによって、介護されるお年寄りに心の余裕を持てるようにするために必要になってくるのはお金です。そこで、無駄に使われている税金を福祉に使うべきだと考えました。

(介護される人に対する思いやり)

③. 福祉を国民全体で…一人一人が福祉に対する気持ちを高め、すみよい街作りを心がけるべきだと思います。福祉に対する気持ちを高めるということは、そんなに難しいことではありません。例えば、車椅子に乗っている人が困っていたら手を貸すとか、横断歩道を渡るお年寄りと一緒に手を取ってわたるとか、このちょっとした心配りが大切だと考えました。

(お年寄りに対する思いやり)

④. 小学校などでの交流体験…小学校の授業の一環でお年寄りのいる施設を訪問し、交流することでお年寄りの価値や知恵を再確認し、その結果地域に住むお年寄りに目を向け、交流が持てるようになってほしいと考えました。

(子供たちに思いやりの気持ちを学んでもらう)

⑤. 地域内での連絡を密に…例えば病院のナースコールみたいなものを、一人暮らしのお年寄りの家に取り付け、困ったときや病気になったときに即対応できるような設備を作りたいと思いました。24時間体制で、地域に一つはそういう設備があってもいいのではないかと考えました。

(一人暮らしのお年寄りに対する思いやり)

私たちに出来ること

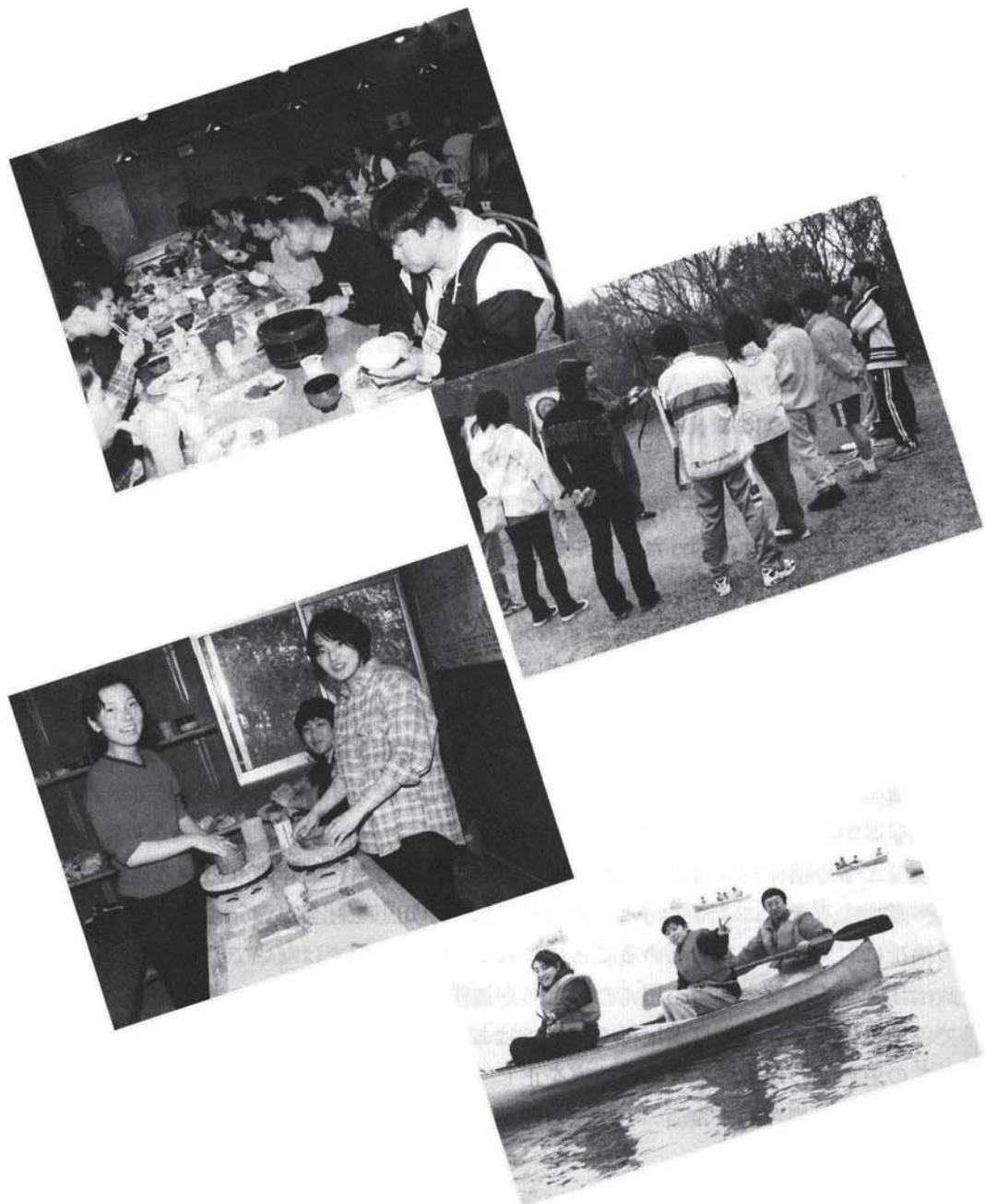
* 地域のお年寄りと交流を深める…地域に住むお年寄りに挨拶や話をすることで、自分たちの地域のどこにお年寄りが住んでいるか把握し、絶えず誰かが気をつけていれば、孤独死などが防げるのではないのでしょうか。

* 施設などへの積極的な訪問…私たちリーダーが率先して、お年寄りのいる施設や交流の場へ参加することによって得たお年寄りの価値や知恵を社会に還元することで、みんなの福祉に対する気持ちを高めることにつながっていくのではないでしょうか。

* 政治に関心を持つ…20歳を超えた私たちが選挙に行くことは当然の義務です。今の政治で、福祉に対する対応は満足行くものではありません。そこで、政治に関心を持ち、私たちの思いをわかってくれる政治家を正しく判断し、投票すべきではないでしょうか。ロータリアンの皆さんにお願い…税金の無駄遣いをしないように政治のみはりをよろしく御願いします。

以上のことから、共生において「思いやり」がとても重要であり、その実現への手段はずばり 人ととの交流 ふれあい 話し合い だと思います。

私たちは今回のセミナーを通して学んだこと、また明日学ぶことを自分なりに理解し自分のものにして地域に持つて帰り「共生、思いやり」を念頭に置き、良きリーダーとなり地域のために頑張ります。そして21世紀に向かって次世代の次期リーダーとして市民の力になっていきたいと思います。



自由時間・食事

「21世紀における共生社会への思い」

元R I 理事、P G

今井 鎮雄氏

(神戸西RC)



みなさん、きのうのフォーラムでの報告によると、いろいろ聞いてこられたけれど、まだよくまとまっているのではないでしょうか。そこで、あなた方が考えていることは、こんなことじゃないのかと、まとめることのお手伝いとして、お話ししてみましょう。一昨日、きのうと、松下さん、東野さんが話されましたね。

企業努力を地域に生かす 松下さんの信念と情熱

松下さんは75歳というお歳。おっちゃんの話のあと、またおじいちゃんがきて話す。なぜこの年寄りの話をRYLA委員の人が企画してきたのでしょうか。

それは松下さんのあの信念、情熱です。新しい時代とともに生きて、自分の会社の仕事に生かしてこられた。今、どの企業もドロップダウンする世の中で、あのグローリー工業という会社が、なぜ隆々として栄えてきたか。そこには松下さんの新しいアイデアが生かされてきたのです。

新しいアイデアを求めて 今も生きる孔子の教え

その松下さんのお話の中に論語がありました。論語というのは孔子の言行録を後輩がまとめたものです。「^{しのたまわ}子、曰く……」といって。孔子は2500年以前の人ですが、その言行が今も生きているのです。

人間の社会には変わってはいけないものがある、ということです。松下さんは、それを

〈今井 鎮雄氏〉

神戸YMCA顧問。大正9年、東京生まれ。旧満州・大連へ転居後、同志社大学法學部経済学科を卒業。幼時からクリスチャンホームで、福祉の心をはぐくむ。昭和21年、灘購買組合（現在のコーポこうべ）に勤務のあと関学大大学院へ。23年、神戸YMCAに就職。38年から21年間総主事を務め、59年に顧問就任。

ちゃんと持ちながら、変革した方がよいものを追及してこられました。そしてその新しいアイデアは若い人たちと話し合ったのとか、テニスクラブをつくったとか、お金を出して勉強にやらせたとかして、その新しいアイデアの中で会社が地域社会に貢献した。企業がこんなこともできるんだという点で、参考になったと思います。

「あなたのことを考えてますよ」 東野さんの半生かけての共生

東野洋子さんはずっとお若い方ですが、キャンプリーダーとして一生懸命やってきました。そして心理学を勉強していた時に出会ったのがダウン症の人たちのグループです。

それから17年、半生かけて、その人たちとの共生の問題を考えてきたのです。そして東野さんが共感しながらやってきたことにみなさんも触れたらどうか、と委員の人たちが考えて東野さんのお友だちである、ダウン症の人たちのグループを連れてきて話を聞いたわけです。

きのう、あなた方の中で泣いている人もいましたね。またプレーヤーのみなさんの中にも泣いている人がいました。何で泣いたのか、それは「私たちがあなたのこと考えてますよ」という気持ちがあらわれた時、人間として共鳴や共感を呼んだのではないかと東野さんは言います。

一つのリンゴを3人で分ける 21世紀のパイオニアに

東野さんは初めに言いましたね。昔は一つのリンゴを食べて3日生きるより、一つのリンゴを3人で分けて1日生きる、人間はそう考えて生きてきた。

それが科学が発達して、一つのリンゴよりも三つも四つも多く生産すれば、分けなくてもいい、つまり、物をつくることに狂ほんするようになった。

私たちはそういう時代に育ったのだが、みなさん方は、これからもう一度、一つのリンゴを三つに分ける考え方に戻ってやっていってほしい。そういう意味で21世紀のパイオニアとなってほしいというのが東野さんのお話のポイントでした。

文化とは価値の体系 世界は再出発を

一つのリンゴを3人で分け合う生活をしてくると、そこに文化が生まれます。文化とは一つのグループの価値の体系です。そのグループの人たちは同じ価値を持つようになる。人の中に価値が生まれる。それが人格です。

グループが違えば、文化が違ってくる。その異文化に接して相手のことを分かる、それが自分を大きくする。長い歴史の中で、共生できる世界、できない世界がある、それを反省しようと、きのう話し合われましたね。世界は再出発しなければならない。それが新しい時代です。そしてみなさん方の時代です。だからみなさん方がパイオニアだというわけです。

ミレニアム2000 愛と正義が満ちあふれる年

ちょうど来年は2000年です。21世紀は2001年からですが、1000年単位でいうと、2000年紀ということになり、キリスト降誕2000年の大聖年ということになります。そして次のロータリー会長になるイタリアのカール・ラビッツァーさんは、この新しい「ミレニアム2000」をキリスト教の世界で「愛と正義が満ちあふれる年」だといわれます。彼らが強調するのは、これを機会に新しい時代に歩みだすのだということです。その意味でもあなた方がパイオニアとして、重荷を負って苦難に堪えて進んでいただきたいのです。

日本の福祉は20年おくれ 人間の幸せを考える

こうして新しい時代へ踏み出さないといけない、ということは、世間もそれに気づいてきています。

行政改革、財政改革、教育改革、福祉改革など。

福祉というのは人間の幸せを考える、ということです。福祉はその時代時代により、変わっています。昔は食べられない人に食物を一が福祉でした。資本主義社会になり、その矛盾を解決するのが次の時代の福祉となりました。こうして福祉国家が成立したのですが、大事なことは、介護をしてあげるかどうかでなく、全体の社会が、どのように1人の人間を大事にするか、にかかっています。

1980-81年の国際障害者年に私たちはシンポジウムを開きました。外国からも国内各地からも多数招いたのですが、その時、アメリカの学者に、「日本の福祉は20年おくれている」といわれました。

日本では、チエおくれの子どもがいたら、その教育を、障害者のための福祉工場をつくる。いろいろやっているのですが、その考えは障害者を排除して健常者だけの世界をつくることにあり、その世界の効率が良くなれば、施設の応援をする。こういう考え方で、日本は技術はあるが、もうけのないことはしない。20年おくれのゆえんはこういうことだったんです。

社会システムの行きづまり 第3の波しぶきがかかる

さて、2000年の曲がり角に立って、私たちは考えなおさないといけないのですが、それは今までの延長線での考えはできなくなってしまったのです。

それはなぜか。人間のつくった社会システムが行きづまってしまったこと、そしてその変更を余儀なくされたが、どうしてよいか分からぬ一からです。

ではなぜ変えなければならなくなったのか。

歴史の大きい流れとして「第三の波」という本によると、まず農耕文明社会があり、次いで産業社会となった。そしてこの本が書かれた時、つまり20年ほど前だが、その時すで

に「第三の波しぶきがかかり始めている」と記されている。この「第三」は脱工業化社会と訳されているが、今でいう情報化社会です。この異質な社会で生きて行くのがあなた方です。

この間どういう変革があったか。まず国際社会ではソ連邦の消滅、中国で天安門事件、ベルリンの壁崩壊など大きな出来ごとでした。

消費のための生産から 効率中心で行きづまり

アダム・スミスによると、経済の仕組みの根本は「消費のための生産」だったが、それが「製品をもっと売るにはどうしたらよいか」つまり、より豊かな生活へ、というように変わってきたのです。

たった100年ぐらいの間に生産がどんどんふくれ、効率中心の経済社会は行きづまつきました。石油をくみ上げすぎていきづまり、危険をともなう原子力に頼らざるを得ず、化学肥料を使いすぎた結果、土地が荒廃するなど。こんな事件に遭遇すると、科学技術の進歩をささえるのは教育だと、改めて思うわけです。

昔は親の背中を見て育った 人間とは何か、の教育を

私は今、幼稚園の先生を育てる学校の理事長をしているのですが、今、幼稚園児に自然なままで絵を描かせるのがいいか、コンピューターを使って描かせるか、意見が二つに分かれています。結論はまだ出ていませんが、コンピューターを扱う中で感性が育つ、という考え方もあるのです。

中世は子どもも大人と同じ社会で育ってきた。ところが産業社会になると、子は親の背中を見て育つことは出来にくくなり、学校が出来た。学校というのは、時代のニーズによって役割を果たしてきた。ところが教育もそれと同じだという錯覚がある。

教育の本質は、人々のために、人間がともに生きるためのものです。人間とは何かーという教育を受けなければならぬのです。

人は物と違う マニュアル化、均一化は通じない

でも科学技術の時代となって、その技術を覚えるのが教育だと思われているようです。

中村恵子さんは「科学時代の子どもたち」という本の中で、科学時代に物をつくる時、効率良く生産するために、マニュアルを用いる。そして、どの製品も同じ品質にするための均一化が特徴だという。

物をつくるのは、そうだろうが、人間は違う。マニュアルでは人間は動かせない。でもこのごろの人は、習うことはできるが、やることはマニュアルがなければできない。教育のシステムが間違っているのです。

温暖化、食糧不足 地球の環境が破壊される

さて、当今環境破壊が問題になっています。かつては陽に当たるのが健康法だったが、今はダメ。エコ自動車を、といわれ、クルマはなるべく乗らないようとかいうが、中国に車がもっと普及すれば、排気ガスは天文学的にふえる。かといって中国の人に、クルマに乗るな、といえますか。人間一人一人の問題として考えると大変なことなんです。

温暖化とともに、食糧問題も大変です。農業国インドも中国も、穀物を輸入しています。

中国政府は各省に15%ずつ耕地を広げるよう指令していますが、広げる余地のない省は、南米に土地を買い、そこでの穀物を買うことにした。13億人をかかる中国で食糧不足となれば、世界中の食糧が不足します。

どんなに抑制した生活を迫られているか。今までの生活の方向を根本的に変えないと、人間みんなが共生して行くことはできないのです。

本モノは「価値の民主主義」 欲望のデモクラシーは過去

アメリカの教育学者がいいます。デモクラシーというが、それは産業社会では欲望を中心としたデモクラシーだった。それは物を豊かにするため、大いに発展した。しかし、その結果がいきづまった。本当のデモクラシーは「価値の民主主義」であるべきである。何が大事なのか。それは正義であり愛である。これこそ21世紀の民主主義である一と。

新しい共生社会へ ロータリーの夢を追い続けよう

これまで話を整理すると、世界的にも歴史的にも、ここ数年で大きな変革があり、経済的にも環境的にも行きづまっている。が、何の解決も見出されていない。

そこで、これまでの欲望を中心とした民主主義でなく、価値の民主主義のパイオニアとして皆さんのが進められるならば、新しい共生社会が生まれるはずです。私たちの夢を追い続けようというロータリーの精神をそのまま、皆さんのがパイオニアとして追い求めて進まれるよう期待しています。

閉講式

「皆さん達に期待しています」

国際ロータリー第2680地区
インカミングガバナー

米 谷 収

第21回のR Y L Aセミナーも終わりに近づきました。現在化学が発達して、いろんなものが出来ました。21世紀になると、もっともっと新しいものが出来るでしょう。今使われているものは80%位と言われておりますが、今使われていないものがもっと増えると言わっております。また、理論的には人間の寿命は120歳位ということですが、医療が発達し、福祉面でも介護がうまくいって、皆さんのが120歳まで生きるようになるかもしれません。そういうまだ経験していないいろいろなものが皆さんのが周りに起こってきます。その時、公共施設が必要であるとか、税金がどうとかというよりも、もっと大きな問題に皆さんに遭遇することと思います。その時に、どうしたらよいのか？皆さんにはパイオニアです。どうしたらよいのか？共生と言いましたが、先生、先に生まれた人の教えをその時に聞くということも大事だと思います。これから未知のことがいっぱい出て来ると思いますが、その時どうしたらよいのか？その時、ここで学んだことを思い出してください。そして本当に共に生きるためにどうしたらよいのか、真剣に考えてください。

この余島という非常に恵まれた環境。桜の花がまだ蕾であります。しかしきっと明日、明後日には咲くと思います。皆さんも蕾ですが、もう咲きたいと思っておられます。明日か明後日には咲かれると思います。よかったです！この感激を是非咲かせたい！こう思われると思います。ぜひ咲かせてください。

ロータリー2000という話を今井先生がされました。“ツゥ オーオーオー”なのですが、私はそれにGをつけて“T o g o g o g o”これは君達行って実行せよという言葉です。聞いて実行しなければなりません。またここで出会った人達が一人でも多くの新しい友達をまたここへ来て勉強するように誘ってください。そうすることによって、このR Y L Aの研修会がどんどん広がって、みなさんのような方々が21世紀を引っ張っていってください。そういうことを期待して私の挨拶と致します。

「皆さん、地域社会に共生という種をまいてください」

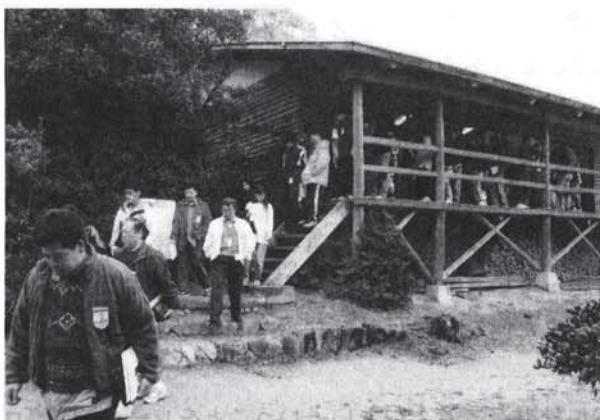
国際ロータリー第2670地区
青少年委員長・R Y L A 委員長

篠原成行

皆さんおつかれでございました。本来ならば我々の地区的ガバナーもしくはインカミングガバナーが来てご挨拶するところですが、今日出席できず、お許しを得ておきたいと思います。

われわれロータリークラブの3泊4日の会合で共生という、大きな種を持って帰っていただきます。みなさんが地域社会に帰られて、地域社会でこの種をまいて芽が出て、花が咲くのはいつのことか分かりません。すぐ咲くか、いや10年後かもしれません。地域社会で少しづつ種をまいていただけたらと、かように思っております。

まだこれから感想文を書いたり、後始末をする仕事が残っておりますので、以上でおわりたいと思います。みなさん元気で。みなさんはR Y L A に二度来れますから、またこの余島でお会いすることを期待しています。どうもありがとうございました。



研修を終えて

「チャチャチャの時代・ 愛の心から始めよう」

ディーン
2680地区青少年委員長

山 口 徹

皆さんご協力ありがとうございました。大変感動的な R Y L A セミナーになったのではないかと私は感謝をしております。

ある時、私の属します神戸ロータリーで、会長がこんなことをおっしゃいました。「今の時代はどんな時代か？チャチャチャの時代である。」と。チャチャチャというのは、一つはチェンジ。今は変化・変革の時代であるとおっしゃいました。

そして今回色々な課題を共有致しましたが、チャレンジの時代であるということ。そして今、そのチャンスを与えられていることを強く感じました。東野洋子さんも、全くチャンスの時代であるということをおっしゃいました。私は三人の講師の先生方のお話を聞きながら、私達がこのいろんな変化をどう受け止めるかということが私達に迫られていると思いました。特に東野洋子さん、あぶあぶあ楽団の皆さんの協力を得て、あのような感動的なプログラムが出来たことを感謝します。私はずっと泣いていました。他人の痛みを自分のものにすることが出来るかということをつくづく感じました。障害を持った人は心の中まで、障害ではないということを私達は認識したいと思いました。

また社会を変化させていくために、行政といいますか、国もいろいろ考えてもらいたいと思っていますけれど、私はあの震災直後、民間団体の責任者として、行政ともいろいろやらなければならぬと思いました。しかしあのようなパニック状態では十分出来なかつた部分もあります。しかし私は言われなくてもする。言われてもやらない。そういう姿勢を持って来たつもりであります。皆さんもしっかりそのような姿勢を持って、言われたからなんでもやるというのではなくて、また言われなくてもするという姿勢をしっかりと持ていただきたいなと思っています。即ち与えられたそれぞれの課題に対して、何をしたいのか、何が出来るのかまた何をしなければならないのかということをぜひお考えをいただきたいと思います。

最後に、グローバルな視点で考えなさいということをレーシー国際ロータリー会長はおっしゃっています。私の地区でもどのような組みが出来るか、いろいろ考えもししましたし、またローターアクト、インターラクトの人達にも呼びかけもしました。が十分なことは出来ませんでした。けれどもまだ問題は解決しておりませんし、まだやらなければならないと思っています。それは世界では毎日4万人の子供達が死んでいっているというのが現実であります。その原因の多くは下痢から来る脱水症であったり、肺炎であったり、は

しか、破傷風、百日咳などです。それらは予防やちゃんとした薬、治療法さえあれば死ななくて済むということなんです。世界の子供達の内、5歳未満の1億5千万人以上が栄養不良にかかり、心身の発育を妨げられ、教育の機会を失っていく。みなさんご承知でしょうか。世界の軍事費は9400億ドル、日本円に直すと、200兆円あります。これの僅か0.1%削減した場合、2000億円が削減出来ます。その2000億円をユニセフの予防接種計画にまわせば、一日1万人の子供達が救えるのです。数字は出ているのです。しかし、実現していません。私達はこのグローバルな視点でこのようなことをどのように取り組んでいたらよいのかということもお考えいただきたいと思います。地域に帰って、夫々のボランティア活動を更に積極的にすすめていってくださるだろうということも信じてやみません。東野洋子さんの言葉の中に愛という言葉がいっぱい出てきました。けれども、私は愛が全てではないと思います。しかし全ては愛から始まるということを確信しています。どうぞ皆さんがこのRYLAセミナーをキックオフにして、それぞれの地域で活躍されるように祈っておりますし、そのために地区のロータリアンがおりますので、こんな事をやりたいけれどもロータリーの皆さん考えてくれないか、助けてくれないかということがあったら、遠慮なくおっしゃっていただければと思いますし、期待しております。最初の私のあいさつに英文で書いておきました。有名な言葉です。「慰められたいと思うなら、慰めなさい。理解されるよりは理解することを求めなさい。愛されたいと思うなら愛しなさい」という言葉を書いておきました。どうぞ一つ一つかみしめながら、それぞれの地域でご活躍をいただきたいと思います。

参加者感想文

A 班



岩崎朋壯

素晴らしい3泊4日のキャンプでした。このキャンプでリーダーシップとはなにか、リーダーとして必要なものはなにか、などを、今、現在リーダーの方々から学ばせていただきました。

未来に向けての福祉問題や差別問題、教育問題などをふまえて共生というテーマで考えたキャンプでしたが、平和ボケして、なにもかも手に入る世の中で、お互いをいたわったり、思いやりの気持ちが薄れている今日、問題解決のカギをにぎるのは、個人々々の思いやりの気持ちだということに気付きました。

今回キャンプを終え、この素晴らしい心のふるさと余島を出て、毎日の忙しい生活に戻った時、キャンプで学んだことをすべていかしきれるように、またリーダーとしても頑張りたいと思っています。最後になりましたが、今回のRYLAセミナーでお世話になった方々すべての方にお礼申し上げます。

ありがとうございました。

黒篠朗生

この余島に来て、さまざまなことを感じました。けれどもこの感じたことをどう言葉にしたらよいものかわかりません。しかし今までとは全く違う価値もしくは考えを得たということだけは何か表現できます。今まで私達は学校では良い成績をおさめ、というような損得ばかりにとらわれた価値観を選んできたように思います。人間らしくとかいう言葉がありますが、その言葉を理解するヒントを数多く与えてもらったと思います。また、今

回出会った同じ班の人々、違う班の人、ロータリアンの方、改めて世の中にはいろいろな人がいて、同じような目標、夢に向かっているんだと思うと、自然に勇気がわいてきました。本当に僕にとって貴重な出会いだと思います。心から感謝したいと思います。

これから一体何が自分に出来るか分かりません。もしかしたら何も出来ないかもしれません。わかち合う気持ちだけかもしれません。まぁ、その気持ちが一番大切なんですが、物事の本質ってことにこだわるというか、見ぬく目と心だけはずっと持っていたいなと思います。それはつまり、心を持った人間になるってことかな。

臼坂 誠

今回、このセミナーに参加してよかったです。

セミナーでいろいろ人の話を聞いて、これから自分にいかしていきたい。

また「あぶあぶあ」のえんそうをきいたり、いっしょうけんめい、とりくんでいるすがたを見て、自分もまけないようにがんばろうと、はげまされたような気がする。あと、いろいろな友達ができだし、学校では、たいけんできないことが、できて、よかったです。

松田和也

この4日間……。本当に短期間のセミナーであったが、非常に充実した日々を送ることができました。

最初は興味があった訳でもなく、とりあえず参加してみよう程度にしか考えていませんでした。

けど今こうして4日間のセミナーを終え、「この機会をのがさなくて良かった。自分にとってここでしか学べないことばかりだった」と全く想像以上の経験に驚かされています。

今、社会に出て7年目。さまざまな社会問題に対しての自分の意識の低さ、人との出会いの有難さ、自分の知らない所で、これだけ多くの若者達が、さまざまな社会問題に働きかけている現実…。

何か忘れかけていた自分、失いかけていた自分に気づいた……気づかされたこの日を二度と忘れぬよう、もう一步さがって世界、自分を見つめていきたい。

中村高志

最初は、ライラがどういう事をするのかほとんどわからず不安でいっぱいのなか参加しました。松下さん、東野さん、今井さんの話はなかには自分の仕事に関係があるのかと思ってましたが、それぞれ、職種の違う所の方の話も自分がしている仕事につながるところがあり、とても共感するところ、参考になる話が聴けたと思います。今日の経験をこれから生かしていきたいと思います。

今日、「共生」というテーマ、普段、意識せずにあたりまえのようにしていると思われ

参加者感想文

ることが、言葉になり、問題提起されると、範囲がとても広く、漠然としているため、とまどうことがありました。参加者それぞれが意見がでて、人それぞれの考え、意見が聴け、いろいろ考えさせられました。今回参加して、このようなセミナーの必要性がなんとなくではありますが、感じたと思います。またこのセミナーで新しい出会いがあり、仲間ができたことに感謝します。

塩谷 岳

今回初めて、RYLAに参加して、すごい感動しました。楽団あぶあぶあのコンサート、涙がでそうになりとてもすばらしいなと感動してばかりの3泊4日の研修でした。班のメンバーの人達も、やさしく、接してくれ、すぐにとけこむことができました。このメンバーでなら、どんな活動をしても成功すると思いました。3人の先生方の講演は、とてもすばらしく、話の中にすいこまれていきそうで、今まで以上に真剣に聞くことができました。私達、若者が、心を開き、話あれば、21世紀に役立つ事、何かできる事があるはずです。みんな一人一人がわかつあえば一つになる。そこから、また、いろいろな事に目を向けて、色々な問題を問いただしていくたいと思います。今後、またRYLAに参加する事ができれば、絶対参加しようと思います。神戸に帰ったら、クラブのみんなに、この感動をつたえたいと思います。

ありがとうございました。

流谷 絵梨

この3泊4日のセミナーは、私にとって考えたり、楽しんだり、とてもすばらしい体験でした。

初日、ドキドキしながら来た余島でしたが、今日の最終日になると、みんなとすごく仲良くなれたのに……と、さみしい思いでいっぱいです。

今回、みんなの考え方、さまざまな意見等、いっぱい聞きました。一人一人それぞれしっかりと一本すじの通った自分の意見をどんどん出し合い、バズセッションの時間は、前日の夜の顔とは別のたくましい顔で、今までにない時間をすごせた事が、私にとってこれから生き方、考え方すごく影響されると思います。「あぶあぶあ」の人達との出会いも、最高でした。音楽を通じて、いろんな人に感動と勇気をあたえてくれて、自分自身、いろんな悩みがあり、みんなにも、それぞれ悩んだりなにか不満を抱えて生きていると思います。それと何かがいっしょであったり、何か感じる事ができる気持ちが一番大切だなと思いました。それから、どうするのか、考えるだけでも、すごく重要だと思っています。私の中で一番感動した言葉が、松下寛治さんの、ねたみ、うらみ、しっとは自分の成長にはならない。心のもちかた一つです。

これからもこの4日間をわすれないで、がんばりたいです。A班のみんな and カウン

セラーの石川さん、白石さん、永松さんに感謝です。

端 純子

平素からあまり心にとめることが無い事を、今回4日間集中的に考え、あらためていろいろな事を思いました。

自らへの問いかけとして、「どれだけ日常に対抗出来るか」が、ずっと頭から離れません。考えるだけで、実際に社会に対し、何のアプローチも行わないのなら、それは実社会で具体的に陽の目を見る事なく、いずれ忘れてします。今、学生として生活する私は、日常に忙殺され、考えてはいるものの……という域を出ることが出来ないでいます。ここから先は意志の力で、考えるだけにとどまらず、行動することを「意識して」日常に対抗してゆきたいと思います。

今回のセミナーで、普段は考えないより広い世界の共生に触れる事が出来て良かったと思思います。

人間は、大抵の人が幸せになりたい、と思っているハズなのに、実際では傷付け合い、いじめやドメスティックバイオレンス、幼児虐待などが、後をたちません。私は、共生という視点から、グローバルな立場に立つ事により、気付かずに通り過ぎてしまうより身近な問題に、自分なりに働きかけてゆきたいと考えています。

他に特筆すべきは、参加者の方とのふれ合いです。人と人が知り合い、親しくなってゆく過程がこんなに心をゆらすのだ、ということを忘れていました。

また、「あぶあぶあ」のコンサートでは、頭で考えるより先に心の琴線とでも言えるものがはげしくゆさぶられ、つくりものではない感動を体験しました。

この4日間を忘れずに胸の内におさめ、これからをよりがんばりたいと思います。

福田加奈子

今回の研修に参加したのは、前回参加された先輩から勧められたのがキッカケでした。リーダーとなる為の研修と聞き、今後の自分に役立てれるのなら、という思いで参加を決意しました。四国と兵庫という2地区から、同世代の人があつまるとのこと、初めは不安もありましたが、今となっては本当にいい仲間ができました。講師の先生方の講義、劇団「あぶあぶあ」の演奏、キャビンタイムでの語らい、とても有意義な時間を過ごしました。特に「あぶあぶあ」の皆さんからは、仲間を思いやる気持ち、一つの目標に向かって努力をする姿、純真などを学ぶことができました。彼らの劇団の中には小さな社会ではあります、今回のテーマである「共生」、共に生きるということが自然になっていたような気がします。ハンディを背負ってはいますが、一人一人が、私が今回学んだリーダーの姿です。「仲間と喜びや悲しみを分かちあい、お互いがお互いを高めてゆく」私なりに今後のリーダーとしての目標ができました。

参加者感想文

今回、私を支えてくれたA班のみんなに、とても感謝しています。なやみを聞いてくれたこと、話してくれたこと、私の意見に耳を傾けてくれたこと、本当にありがとうございました。

カウンセラーの永松さん、石川さん、白石さん、いろいろ助けていただいて、ありがとうございました。

この場限りでない仲間としての交流が続けられたらと思います。

矢野由理子

このライラセミナーに参加して、想像していた以上に自分の実になることが大きく、とても有意義な時間を過ごすことができました。

兵庫・四国からいろんな学生や社会人が集まっていて、年齢も下は20才から上は30才(?)位まで、さまざままで、皆それぞれ違った体験経験をしており、おもしろいディスカッションをすることができました。1日目、2日目はまだ会ったばかりでとか、遊びの面が少し強かって、それはそれで楽しかった、けれど特に3日目のバズセッションやフォーラムは充実した密な話し合いができ、いろんな面で強烈に刺激を受けて、とても貴重な時間を共に過ごせたと思います。なかなかテーマをもとにあれだけ皆で一生懸命に討論する場や機会に出会うことは少なく、このライラセミナーに参加させていただいたことに感謝、21回も持続して青少年にこのような場所を提供していただいたことに感謝、たくさんの友に出会い、心と心のふれあいができたことに感謝、本当に感謝の気持ちがあふれてきます。運営するにあたりたくさんの労力や資金、時間等を要して、本当に大変だとは思いますが、是非ともずっと存続していただきたく思います。素晴らしい人と人の出会いにより、必ず自分も成長することができるし、また周りの人にも出会いの大切さを伝えることができます。このような貴重な経験ができるだけ多くの人に感じてほしいです。最後に本当にお世話になり、ありがとうございました。

田中麻理絵

まず、全体的な感想を一言で云えば、このセミナーに参加できて非常にラッキーでした。正直言って、プログラムが始まるまでは、一体どのような内容のセミナーなのかよくわかつておらず、全く初対面の人と「共生」という大きなテーマについて語り合うことが、本当に可能なのだろうか? と不安でしたが、今では実に充実した時をみんなで共有できた、と満足しています。

この充実感を得られたのは、プログラムの中でも、バズセッション+フォーラム、そしてあぶあぶあのみなさんとの交流のおかげだと思います。バズセッションからフォーラムに至るまで、わがA班で話し合った4時間は、とても短い時間であった気がします。それは、普段は、自分の暮らす社会について深く友人と話し合うことがほとんどなく、逆にそ

のようなことに真剣になることが何か恥ずかしいような雰囲気もある中で、「実は私はこのようなことを話し合ってみたかったのだな」と気付いた時間がありました。人の意見をきき、自分の意見を述べることで、それぞれがもっていた以上の新しい考えが（それは気付きでもある）生まれてきました。それは自己発見でもあり、他者理解でもあったと思います。あぶあぶあの方々からは、「言葉を媒介としないでこれほどまでに気持ちを伝えることができるのだ」ということと、「それにはお互いの歩みよりも必要」ということを学びました。私は東野先生ほどのすばらしい貢献は今のところできないかもしれないけれど、感じることができたのだから、可能性はあるでしょう。

まずは自分にできることからぼちぼち始めてみようと思います。

カウンセラー 永松潔和

21年前に第一回RYLAに受講生として参加し、19回より今回までカウンセラーとして参加して、毎回新しい出会いがあり、新鮮な気持ちで余島に来ています。今回も又、松下様、あぶあぶあの東野洋子さんのお話があり、あぶあぶあのコンサートに参加することができ、これまで以上の感動を受けた21回でした。

カウンセラーも2回目ともなりますと少しは冷静にグループの中を見ることができ、楽しみも倍増しております。現代の若者をとかく悪く思われがちですが、外見のみで判断してはいけないことが、このセミナーを通して、特によく分かる気がします。どんな若者もすばらしい考え方を持っているのですが、現代の社会の中では、この考えを引き出すすべがないような気がして残念です。これから指導者になられる方々がこのことをふまえて社会に出て将来このような考え方を自由に言えるような社会にして頂くことがこのライラセミナーへの答えではないでしょうか。

最後にこのような体験が出来ることは全て受講生のおかげです。全ての受講生、ロータリアンに感謝いたします。おそらく次回もこの余島にいるかもしれません。ライラは2回まで受講可とのことですので、もし顔を覚えて頂いていたなら声をかけて下さい。またすばらしい出会いを期待しております。

カウンセラー 白石正明

- ①バズセッションの時間を多く取ってもらいたい。
- ②フォーラムの時間も増す
- ③レクリエーションの時間もふやす

カウンセラー 石川美佐子

今回のセミナーを体験し、日常何となく感じていた事が、こんなに重みのある大変でまた絶対に必要ななど、ゆり起こされました。何かを具体的に行動をする事の前に、ここ

参加者感想文

で体験し得た事をまず一番身近にいる家族、友人達に自分の持っている最大の言葉と気持ちで伝わるように話をしたいと思っています。自分自身の事から今生きている小さな空間の中でも、しなければならない共生のための事が一杯あるんだと思いました。カウンセラーという役目も十分に果たせぬまま、4日間、受講生になってしまっていました。お役に立てるどころか、自分の役に立ててくれた、このセミナーに出席して良かった。又、あぶあぶあぶの人達の演奏とふれあいに悲しいとかくやしいとか嬉しいとかという感情以外の体全体から沸き出てくる説明のつかない長年忘れていた涙を流したような気がして心が洗されました。

便利になった日々の生活の中で、わがままになり、自分自身の保護だけで精一杯だった事を反省し共に生きる、また、わかち合う心を持ち、皆ともっともっと仲良くしたいと思います。



カウンセラーのミーティング

参加者感想文

B 班



岡本 亮 (吾the朗=ござろう)

今、ライラセミナーを終えてまず思うことは「ロータリークラブおそるべし」ということである。私は、このライラに来るにあたって自分の力をためしたいと思っていたし、いろいろな人と影響しあってお互いを高めたいと思っていました。そして、まず感心させられたのは講義においての密度の濃さである。内容については感心するが多く納得するばかりで、その中で自分でもっていた考え方というのは太い幹ではなかったものが、その講義を通して太い幹へと変わっていったと思います。また東野先生の言われてた「分かち合いのよろこび」などは自分の中にぼんやりあったものを強烈にふるわすものであり、私自身がそう願うものでした。そしてバズセッションやフォーラムでは同世代の人とディスカッションする中でお互いを高めあい、お互いを認めあい、これからを担っていく仲間として心強く感じ、うれしく思いました。この四日間を通してでは「幸せに生きる」ということの意味を理解だけでなく体で心で感じることができたと思います。今まで自分で考えていた「自分は何ができるのか」「何がしたいのか」とかのものの道しるべとしてこのライラセミナーが生きたように思います。またこのような機会があればぜひ参加したいと思いますし、自分からそのように機会をもっていきたいと思います。このライラでいろいろ教えてくださった先生方やこのような機会をくださった方々に心より感謝します。

感謝の気持ちを大切にこれからも己を高めがんばっていきたいと思います。

大久保武 (オカリナ刑事)

「共に出会い共に学び共に生きる」

ほんの4日前に、全く価値観の違う我々は出会った。美しく、そして静かな余島の自然に囲まれて、互いに自分自身の研修に取りくんだ。

今となって思うのだが、学び共生することはすべて出会うことから始まるのではないだろうか。価値観の違う者が出会うことにより互いの価値観を認め合い、相互作用することによりまた自分の特徴が生かされる。そして、友と別れ輪を広げていくことにより、また新しい出会いがあり共生の範囲が広がっていく、今回のセミナーは、まさにこのサイクルの中の一つの出会いの場であったのではないだろうか。

この4日間で、私自身たいへん数多くの出会いをすることができた。特に、楽団あぶあぶあのみなさんとの出会いは、私自身たいへん大きな影響を与えられた。まさに障害者の方たちとの共生の理想の姿を私に与えてくれた。生きることの楽しさを身をもって教えてくれた。そんな一つの大切な出会いであった。

私のこのセミナーでの成果は、今の時点ではわからない。これから私自身がどれだけ学び、出会いを繰り返すかによってこのセミナーの価値が大きく変化していくと考えている。このセミナーの価値を大きなものにするためにも、これから数多くに出会いを繰り返していきたい。

最後に、私にこの出会いを与えてくださったみなさんに感謝します。みんなの未来にすばらしき出会いあれ。

内藤正勝（越後屋）

この4日間を通して普段の生活ではなかなか体験できないことを体験させていただきました。

私が今回参加させてもらったのは、職場からの出張命令でした。この余島にくるまでは、自分の心の中で「仕事」という考えが多くを占めていましたが、余島につき、グループの仲間に出会い会話し、同じ時をすごしていくうちに自然とそのような気持ちがうすれていき、楽しい時間がすごいスピードで過ぎていきました。

私は専門学校生でしたので、大学生や他分野の専門学生の考え方や、思いにとても興味があったのですが、なかなか話をするチャンスがありませんでした。ですが、私のグループの仲間は大学生が多くいましたので、日ごろ聞きたかったことやそれぞれが思っている夢や希望などを聞かせてもらい、とても勉強になりました。やはり、人間が生活し、仕事し、夢をおいかけるには人脈という大きな情報網を多くはりめぐらせるのが一番重要で、そして、とても難しいことだと思いました。

もう一つ勉強させていただいたことは、講師の皆さまの話のうまさでした。人をひきつける話し方、聞き方がとてもすばらしく、私自身、話の中に吸いこまれていました。

自分の今の話し方を全部変えてしまうのは不可能だと思うし、それはするつもりはないですが、皆さまの話し方や聞き方、応答のしかたなどの中から吸収できる部分を少しづつ

参加者感想文

自分の中に取り入れて行き、良い所はさらにのばし、悪い所はなおしていける様にして、自分ができる最高の話し方を見つけ出したいと思っています。

本当にこの4日間ありがとうございました。

南條 誠（利子刑事）

2年前からRYLAセミナーに参加しようと思い続けやっと参加できました。同じくらいの歳の人と、これだけ社会について話したことは今までなかったかと思います。いつも社会について話していたわけではありませんが、3泊4日でこれだけの人と話ができ、これだけの人と仲間になれる活動は多くないと思います。来年、そして、その次と自分の活動している団体の他の人達にも参加してもらいたいと思っていますので、長く続けて下さい。

またロータリアンのみなさんのパワーには4日間ずっと、おどろかされてばかりでした。いつまでもパワフルにとは、むずかしいかと思いますが、僕達に、そんな40才、50才になりたいと思わせてしまったのですから、僕達の前だけでもパワフルでいて下さい。4日間ありがとうございました。

山本真弘 “リーダー”

正直いって「RYLAセミナーって何？」というのが最初の気もちで、僕がこのような主旨の会に出席することが何か場違いなのではないかと思っていた。しかし、日常生活、仕事から離れ、3泊4日の講義、キャビンタイム等を通じてさまざまな人の考え方、愛、情熱を感じることができたと思います。

ここで感じたこれらの想いは、今までに体験したものとはまったく違い確実の僕の中の価値観や固定観念を変えてくれ、決して忘れることのできない心のかてになったと実感することができます。また、このセミナーを通じて、出会うことができたすばらしい仲間たち、たった4日間という短い時間の中でここまでみんなが心を開き、自分の思いや考えをぶつけ合えるということにおどろきました。でも1番おどろいていることは僕がその仲間の一員であり仲間も僕を認めていてくれるということでした。今回のセミナーのテーマである「共生」がまさに今、僕たちの間には芽生えているのではないかと思います。最後に僕にこのようなすばらしいチャンスをあたえてくださったロータリアンの方々に厚く感謝いたします。

大江美佳

この4日間、私は共生を軸にさまざまなことを考える機会を持つことができました。今まで「共生」など、ただ、バク然としか考えたことがなかった私にとって、講師の方が話される内容は、とても新鮮で、刺激に満ちていました。特に、あぶあぶあ楽団のみなさん

との出会いは、私に無償の愛を体験を通して実感させてくれました。

セミナーの中で、私達は何度「次の時代をつくるパイオニア」だと言われたことでしょう。最後の講義で今井先生がおっしゃられた言葉の中に「欲望の民主主義から価値の民主主義へ」という言葉がありました。価値とは、正義や愛のことを指しています。正義や愛の価値を尊ぶ世の中をつくらなければなりません。そのためにはひとりひとりが愛の素晴らしさについて、もっと知り、もっと感じる機会や場をつくらなければならないということです。山口さんは最後のまとめで、あぶあぶあの方に、障害を持っていても、心に障害はないことを教えられたとおっしゃられました。バズセッションの中で自分の心の中に「気の合う人とだけつき合っていきたいと思う気持ちがある」ことに気づいた私達。もしかすると、現在、心に障害をもっているのは、豊かさで大切なものの見極める目を失った私達なのかもしれません。

21世紀は、心という形のないものにスポットがあたる時代でしょう。屈折した愛の形や、心の病気なども多くなり、カウンセラーなど、心の専門家も増すと思われます。しかしだ大切なことは、専門家ではなく、すぐそばにいる家族や友との心を通わすことではないでしょうか。

このセミナーには愛があふれていたと思います。たった数日間ですが、同じグループになった人たちとも、素敵な心の交流ができたと思います。私は、学生時代の体験を通して、ボランティア活動が多くの人たちと実り多い心の交流ができる、ひとつの手段があるということを知っています。幸い私はボランティア活動にたずさわる職業につきました。ひとりでも多くの人がボランティアを通して、心を通わし、自分の心の内に愛の価値を見い出すこと——「共生」に向けての第一歩を踏み出していきたいと思います。

五百蔵昭子

今回、RYLAセミナーに参加して、学ぶことや考えさせられることばかりでした。自分の知識の無さをとても感じました。みんながいろんなことに関心をもち、考えているのにおどろき、私はボーッとしているなど痛感しました。

あぶあぶあ楽団のみなさんの、一生けんめいな姿をみていると、自分は一体何をしているのか、何かくやしく、かなしくなりました。人と接するということの本当の姿みたいなものを感じたと思います。とてもいい経験をしたと思い、とてもうれしいです。

短い期間だったけど、知らない人と仲良くなり、いろんなことを話し合い、考えていくという体験を通してとても大きなものを得たように思います。あまり、セミナーみたいなものには行かなかったけれど、どんどん外に出ていって、いろんな人と話をしたりしていきたいと思っています。

今回は、何ものにもかえられないすばらしい経験ができて、参加して本当によかったです。とても充実した4日間でした。

参加者感想文

小山年美（キシリトール）

参加する前は期待と不安が混じて、3泊4日どうなるんだろう？と思っていました。参加して、すごくいい仲間と出会えて、いろんな事を教えてもらいました。そして、“共生”という大きなテーマを、この小さな島で、いろんな角度で、広く、深く、考えられた事は、自分のこれから、生きていく力になるだろうと思います。今から、自分の性格ががらっと変わるという事はムリだとしても、ほんの少しの成長につながったと思っています。

この3泊4日をずっと忘れません。

余島の事も忘れません。どうもありがとうございました。

岸 博子（さくらこ）

4日間があっというまだった。初めて出会った11人で、共同生活していくという無謀な感じもしたけど、振り返ってみれば、新鮮で、まさに“出会い”だった。私は、このRYLAセミナーで、リーダーのるべき姿を学ぼうと思っていた。香川大学ローターアクトクラブの会長として、ゆきづまっていたところもあったし、残りわずかの任期をどう務めようかとも考えていたから。

一日中、いっしょにいて、お笑いの話や、真剣な話など、時間をともにするたびに、それぞれの性格や、リーダーとしての信念や、自らの哲学など、感じとることができて、自分なりのリーダーの理想像ができてきたような気がする。今はまだ、考えがまとまってくれなくてぼんやりしているが、まず、人を思いやる心をもとうと思った。B班の人たちは、なんでこんなに他人の事を考えれるんだろうと思うくらい、お互いを思いあつていた。初対面で気を遣っていたところも多少あったかもしれないが、でも、自分の意見は、つらぬいていた。他の人と違うところは「違う」とはっきり言える関係だったように思う。それが、認めあって、尊重しあっていたからだと思った。次に、私は、自分なりの信念をもって、もっと自信をもとうと思った。自信のない会長にはやはり誰もついてこないから。自然と人を導けるような“徳の力”を身につけたいと思った。もっともっと、勉強しようと思った。いろんな所に行って、いろんな人と会って、いろんな話を聞きたい。もっともっと、知らない世界を知りたい、感じたい。そう思えるようになった。今までの20年間、何も行動をおこさなかったことが、悔しく思った。私が、ぼんやりと暮らしている間も、B班の仲間たちのように、すばらしい体験をし、成長している人達もいたのに……。B班の、リーダー、としこデカ、えちごや、オカリナデカ、ござろう、おかん、番ねえ、キシリトール、なっちゃん、たまちゃん、そしてアドバイザーの空にい、おかあさん、すべての人に影響をうけた。みんなにありがとうを言いたい。そして、今度は、私が人に影響を与えるようになりたい。

森元景子

今回、このRYLAセミナーに参加するにあたって、以前に参加した事のあった先輩の話を思い出し、少しプレッシャーを感じていました。ですが『必ず自分にプラスになる』と言っていた言葉を思い出し、まだまだ未熟な私だからこそ参加できるのではと思い、おもいきって参加する事にしました。今、すべてのプログラムを終えて、確実に私の身になっていると感じます。はっきりと言葉にはできませんが、体の中から何かがわいて出てきているのです。講義もそうですが、何より参加者との話には、すごく感銘をうけるものがありました。まじめな話もそうですが、一番身近だからこそ感じた方言が印象的です。四国の4県と兵庫県という近県であるにもかかわらず、意味がわからないようなものもありました。B班は酒をあびるほど飲んだというわけでもなく、みんながかざらない心で語ってくれた事が、すごくうれしかったです。最近、友だち同士でも腹をわって話をする事がなかったから、人とぶつかり合えた事が私の心を動かしてくれたのかもしれません。これから、本当に何が起こるかわからないけど、わからないからこそ楽しんで生きていきたい、そしていつも前をしっかり見つめて、笑いたい、そんな私でいたいと想います。

力石直子

物事のとらえ方が変わった。私は参加する前は、人と接することが怖くて、面倒臭くて……という感じだった。けれども、自分以外の人といっしょにいることがこんなに楽しいことだったんだと感じれるようになった。あぶあぶあのプレーヤーのみなさんを見て、自分が思い悩んでいたことが、ちっぽけなものに思え、バカバカしくさえ思えた。本当にいい経験をさせてもらった。

ディスカッションにおいては、メンバーの人達にも恵まれていたおかげもあって、十分に討論でき、とても満足している。意見を十分出し合えた。これはやはりキャビンタイムで親しくなる時間をとってくれているおかげである。だが親しくなるのに単なる世間話だけをしていて、それぞれの思いや考え、ある事柄に対する討論のようなものが少なかったのでは!? という気持ちもある。十二分に親しくなっていたから、バズセッションのとき、あんなにも、深く討論し合えたとも思うが、2日目の夜から既に討論に近いようなものをしていたら、良くも悪くもどうなっていただろうとも思う。

この3泊4日は非常によかった。楽しかった。充実していた。いいことばしか出てこない。このセミナーに参加できて本当に幸せでした。

カウンセラー “そらにい” こと 空地顕一

久しぶりに、学生の気分にもどることができました。若者たちとの討論、「あぶあぶあ」のみなさんの純粋な笑顔、感動的な合唱、講師の先生方の講義、いずれをとっても、新鮮

参加者感想文

な体験で、実際にその場にいあわせることのできた喜びを感じています。カウンセラーとしてもロータリアンとしても未熟ではありますが、Bグループの若者たち、弘光カウンセラーが助け合い、もりたててくれたように感じます。みなさん、どうもありがとうございました。このすばらしい体験を、もっと多くの人とわかち合いたいと感じています。

R Y L Aへの要望（受講生より）

- ①オリエンテーションの不備（1か月前に青いパンフレットが届いただけで、他に何の連絡もなかった）
- ②講義の話の時間を、2時間よりもう少し少なくて、質問時間を多くしてほしい。又、この時に全員でディスカッションできるようになればいい。
- ③他のグループとの交流の時間がほしい。
- ④男性のフロ場をもう少し大きくしてほしい。
- ⑤テーマが大きすぎてよくわからない——テーマについて少しかみくだいた説明を受けたい。
- ⑥初日から、まじめな話題で討論できるように、その日その日のテーマを設けてはどうか。
- ⑦バズセッションの時間を増やしてほしい。
- ⑧班の人数は、もう少し少ない方がよかった。（少数意見）
- ⑨年度末なので、自分の所属するボランティアグループの仕事が忙しい時と重なる。

カウンセラー 弘光妙子

'96年に次いで二度目の参加をさせていただきました。お天気には少し恵まれませんでしたが今回もまたいい出会いをいただきました。

あぶあぶあの素敵なお友達にもめぐり合えましたし、東野洋子先生の自然で何の気負いもない生き方に感動しました。

余島の自然にかこまれて有意義な4日間を過ごさせていただいたこと、そして、ライラをささえて下さった運営委員の方々に深く感謝いたします。

空地カウンセラー、お世話になりました。受講生の皆さん、ありがとうございました。

参加者感想文

C 班



足立 学

今回の研修会に参加させていただきありがとうございました。

今までロータリークラブの活動について知らなかった事が、少しずつ分かったように思います。私は、現在兵庫県立但馬ドームに勤務しており、日々県民を中心に社会体育の指導を行っています。そこで今回のフォーラムで、リーダーとしての役割や今後期待することについて「共生」をテーマに考えてみました。最終的な答えは、やはり自分が考えていた事と同じであるとの結果になり、少し自信が持てました。私達が学習した事は決してむだではなく、きっと、48人全員が地域に帰って活躍してくれる事と思います。

又、私の勤務する但馬ドームは、自然との共生をテーマに建設された近代ドームです。今回の学習をもう一度考え直し、職務と地域活動の両面でがんばりたいと思います。

今後もロータリークラブの会員皆様のご活躍をお祈りいたします。

本当にありがとうございました。

大田英司

このセミナーは全体として非常に楽しかった。講師の先生方の講義は、具体性に富み、実際の体験を交えていた為、理解し易く、ためになったと思っている。この3泊4日のセミナーは、参加の動機は些細なことであったが、いろんな人に出会い、いろんなことを語り、いろんな考えを聞き、セミナーに参加できたことを非常に嬉しく思っている。

私はC班になったわけだが、班編成の妙か、何故かそれぞれがLocalな繋がりを持ち、初日の昼の時点で初対面であるのに、顔見知りであったかのように打ち解け、住所録を作

り、同窓会を開きたいという話が出るまでになった。このような班に配属してもらえたことにとても感謝している。こんな楽しい、こんな気楽な気持ちになれたのは本当に久しぶりだった。またこのメンバーで何かしたい。

講義は理解し易かった。しかし、納得できないことや、反発を覚えたこともあったが、全体として素晴らしい、机上の空論ではなく、実践を伴っているため、講義の内容を自らにおきかえ、応用がしやすい内容であったと思う。バズセッション・フォーラムはどのような話にあるのか不安ではあったが、意見は出て、発表時に皆がまとまったのが非常に良かった。

最後に、このセミナーの企画・運営に携わったロータリアンの方々、余島の神戸YMC Aの方々、またその他の裏方の方々と余島の自然に感謝とお礼の気持ちを込めて、大変ご苦労さまでした。私は非常に感謝しています。

橋本秀祐

3泊4日のRYLAセミナーを終えて、まず今までとどう変わったかを考えてみた。

まず、自分について、このセミナーはいろいろな職業・年齢層の方が参加されていたので、今まで話す機会の少ない人との交流ができたことが最大の糧となったと思う。それぞれの意見を聞いて、ほとんどの人が自分の意見をしっかり持っているということがわかり、自分もこれから先の人生で苦しいことがやって来るかもしれないが、その時こそ今回のセミナーで学んだことを生かしたいと思う。

次に仲間について、今回のセミナーに参加したメンバーは、様々な要素や偶然が重なり、この余島に集まつた。今まで全く知らない人だった私達はいつの間にか親睦を深め、不思議なくらい仲良くなれた。それは何故かなと考えてみるとやはり、同じ目的があるからだと思った。「セミナーに参加する」という目的で集まり、全員がそれに真剣に取り組んだ結果だと思う。自分なりに、これが今回のテーマである「共生」の第一歩ではないかと思う。

中川 啓

3月25日の午後から4日間、この「第21回RYLAセミナー」に参加して、たいへん貴重な経験を得ることができました。

参加するまでは、いま一つ、このセミナーの目的がよくわからないうちに初日は終わってしまいました。そして、2日目、松下会長の人生体験からの提言は「21世紀に向けてのリーダーとはどんな人か?」ということを、説得力のある講演をいただき、たいへん有意義でした。そして3日目、東野洋子先生の「生きる」は「共生のすばらしさ、愛を分かち合うこと、個々の価値を尊重することの大切さ」などふだんの生活の中では、時間をとって考えたことのなかったことを聞けて、たいへん勉強になりました。午後からは「バズセッ

参加者感想文

ション」「フォーラム」と「共生」についてみんなでいろいろな意見を出し、話し合い、たいへん楽しかったです。

そして、このセミナーに参加して一番よかったです、C班のメンバーをはじめ、このセミナーを通していろいろな人と出会うことができたことです。

これから、地元に帰って、このセミナーでの経験を生かし、立派なリーダーとして、青少年の育成・指導に努めていこうと思います。

最後にロータリークラブの皆さん、本当にありがとうございました。

前田佑史龍

私は無知のままこのセミナーに参加して、来た時の気持ちは、本当は「早く帰りたい」という気持ちでした。しかし、オリエンテーションに参加して、「この班ならいいそうだ」という気持ちになりました。それは雰囲気とか、会話とか、いろいろな要素からの気持ちの移り変わりでした。そしてキャビンタイムでも、さらに友情が深まり、良い経験になりました。初めて聞くバズセッション、これも自分の考えを教えてくれました。「共生」という漠然としたことに対して、個々の意見を発表してそれを班でまとめていく。さらにこの班では、ミニコント付という他にはなかった方法でよかったと思う。

このセミナーに来て、初日を過ぎた所から、もう帰りたくないと思いだして、気がつけばもう最終日、この班ともお別れだけど、今後も連絡をとりたいし、会いたいけど、必ずしもそうとはかぎらないので、できるかぎりのことをしていきたいです。最後に、今の気持ちは、「帰りたくない」です。

見片康彦

今回のライラセミナーに参加して本当によかったです。いつも自分のまわりには学生リーダーばかりなので、社会人の方や、他の活動をされているリーダーとも話すことができて、自分のためになったと思います。特にC班は、初対面とは思えないほど初日から盛り上がり、「ライラに参加してよかったです」「C班の1人になれてよかったです」と心から思うことができました。

日頃は学生リーダーばかりの集まりなので、どうしても視野がせまいと自分達でも思うところがあったのですが、今日の経験を生かしていくことで、もっといい活動ができるのではないかと思います。今回参加できなかったリーダーにも自分が得たものを伝えていきたいと思います。

最後に、今回またま出会っただけなのに、4日間でこれだけ親しくなり、楽しく過ごせたことを本当にうれしく思います。今日出会った方々とは、この4日間だけの付き合いではなく、これからも、意見交換、情報交換などいろいろ関わりを持っていきたいと思っています。

本当に4日間ありがとうございました。

福岡美明

第21回のRYLAセミナーで、今までの私が見た事のない世界を見ることができました。それは、とても純粋な世界でした。『あなたの幸せを願う』ということです。無条件で。“Give and take”的精神はよく耳にしますが、見返りなども考えないで、与えて、理解して、待つという愛の形に驚き、感動しました。あぶあぶの人々の輝いた目、体の奥からわきでるDance、私は、あの目、あの表現が出来るだろうかと考えた時、一筋の涙（もっとだね…。）がこぼれました。感動と自分の中の温かいものに、「コレだ」と思いました。この心を私の心に持とうと思います。他人の痛みを自分の痛みに変える力があれば、どんなに満ちた気持ちになれるだろうか。この心を持つためにどうやっていこうかと今考えています。大切な気持ちをありがとうございます。

後もう一つ感謝したい事があります。ステキな人々に出会えた事です。私自身の話も親身になって聞いてくれ、それぞれ悩みを持ち生きていました。話して、話して、聞いて、聞いて、飲んで、飲んで、飲んで、楽しい時間でした。皆さんのがいろいろな所で活躍する姿を考えると、私もがんばることができそうです。

=番外編=

インテリアコーディネーターの資格を取る。もっと勉強する（専門学校）。北海道をツーリング。海外派遣に応募。一人旅。一人暮らしをする。たくさんしたい事があります。「これをやった」という大きなものがほしいです。この気持ちを忘れないために。一つでも多く夢がかなうように、この場をかりて、書くことにしました。3泊4日の素晴らしい時間を皆さんと一緒にすごせて良かったです。大切なものをありがとうございます。

小倉明子

何から書けばよいのやら……。とにかく盛り沢山で全力疾走しっぱなしの4日間でした。（その割には開会セレモニーで眠りこけておりましたが。）

RYLAセミナーはいろいろな活動をしておられるリーダーさんたちと交流を持つことのできるまたとない機会であると聞いて参加しました。初日、余島に渡ると聞いて、「海の孤島……」と絶句しましたが、海と緑に恵まれた中で、久しぶりに羽をのばすことができました。

初対面の人とたった4日間でどれ程親しくなることができるのか、自分はグループの中にとけこむことができるのか、と、とても不安に思っていたのですが、とにかくC班のみなさまのパワフルさに巻きこんでいただき、不安もどこへやら、あっという間のセミナーでした。C班のパワフルさと思いやり、思い切りの良さには頭が下がります。初日の夕方から「同窓会をしよう！」という声が挙っていたことにも見られる団結力とあわせて、自

参加者感想文

惚れでなく、自分にとって最高のメンバーであったと思います。

顔合わせのときにはまとまりのなかったメンバーが、グループ内でのそれぞれの役割を自然と見つけ、自分の個性を發揮していく過程が自分で感じとれ、どんどんいい班になっていく実感があってうれしかったです。

セミナーは終わりますが、地元で家の近い方々、一緒に遊びましょう！ 同窓会も“一気のC班”の異名に恥じないド派手なものを……!?

出会って少ししかたっていない人たちにこんなふうに思える自分を嬉しく思います。

最後になりましたが、一步引いた場所から常に私たちを見守りバックアップして下さったカウンセラーの水谷さん、濱さん、ひろろさん、本当に有難うございました。

With lot of love

水口恵理子

私は、この話を初めていただいた時、人と会える、ということにとてもひかれました。日常生活の中でほとんど変わることのない生活、人間関係、そして考え方に対する私自身これでいいのだろうかと悩んでいたように思います。

初めて知り合った人たち、正直言って不安だらけでした。受け身でかかわっていくことが苦手である、と自分が思っていたのです。でも参加して、この「参加したい」という気持ちから行動に移すというちょっとした勇気が大切なのだということが分かりました。参加して、たくさんの人と話すと、いろいろな個性を持っていて、いろいろな考え方があって、みんなの話をきいているうちに、どんどん自分の抱えている不安や悩みがはっきりしていきました。「聞いてくれる」というここちよさから、自分を出せるようにもなりました。まわりの人達で自分も変わっていけるんですね。また、思索の時間には妻恋峠に行きました。大変険しい道に息もあがってしましたが、美しいけしきが見た次の瞬間、私は心があったかくなってしまったのです。下に見える砂浜に「おつかれさま」と峠から見えるように峠の方向に向けて書かれてあったのです。きっと書かれた方もこの峠にあがり、この大変さを知っているからこそのことでしょう。誰が書かれたのかは分かりませんが、私はこの『共感』をいつまでも忘れません。

本当にちょっと相手のことを考えるだけで入ってあったかくなつて伝わっていくんですね。私はこの気持ちを忘れていたのかもしれません。行動にうつす勇気、そして人とつながりで、自分はどんなにも変わっていける、ということを気付かされました。本当にこのセミナーに参加できたことを感謝しています。みなさま、ありがとうございました。そして、また会える日を楽しみにしています。

松下智恵子

3泊4日の研修、時間があつという間に過ぎた様に思います。流れは非常にゆったりと

していたのですが、充実した時のように思われます。テーマを与えられていたものの、範囲が広く抽象的に感じていたのが実際のところでした。しかし、この4日間を通して、私は、自分自身が少しづつ変化していくのに気付いたのです。日常生活に於いて、徐々に忘れてきたもの、失ってきたを取り戻すとまではいかなくても、自分自身に、改めて問題意識の芽生えを感じることができました。周りの方が全て、私達各々が発する全てを受け入れて下さる姿勢、そして、自分自身も相手を素直に受け入られるような不思議な感覚が嬉しく思われました。実際、いつもの私であれば、受け入れない又、否定的にしか思っていなかった言葉や態度が、そのまま私の中に入ってくるのが分かったのです。

講義の中であった、「やさしくなったのではなく、優しかったことを思い出す」という言葉（東野先生）が非常に印象的でした。

短い間でしたが、皆に会えて良かったと思います。これからも人との出会いに目を向け、大切にしていきたいと思っています。そして、今の気持ちを忘れないよう努めていきたいです。

最後に、私達を受けとめて下さったカウンセラーの方々、ありがとうございました。

長澤 舞

「ライラセミナーは缶詰め状態だけれど、凄くプラスになるよ。」とある私の先輩が言われました。人により感じ方はさまざまですので、中には参加前と後の心の変化などあまり感じられないままにセミナーを終わられた方もいらっしゃったかとは思いますか……。

私はと言いますと、「このセミナーで沢山のモノを得るぞ。」と強く望んでいた訳ではなく、「何かに参加する事、即ち、何か行動する（act）事により今までとは違った感情が湧き起こるかも知れない、自分のふとした心の迷いにより失ってしまった心の泉をもう一度、築き上げられるかも知れない……。」という気持ちでこのセミナーに臨みました。笑いあり、涙ありの連続で脳に心地よい刺激となりました。この時、感じました。「私はまだ生きていたのだ。」という事を……。

4日間、いろいろとお世話になりました。

八木貴穂

3月25日から28日までの4日間の短い間だったんですけど、ここまでいろいろなことができるとは思いませんでした。

内容が漠然としていたので、何も分からぬまま、来たって感じだったんですけど、後でゆっくり考えてみたりすると、一人一人の行動とか意見とか、こうだったのかなって、思うことができたりしました。

普段の生活で、ここまで人の話を聞いたり、自分から話したりすることがないし、そういう場所もなかったんですけど、その機会とチャンスをあたえてもらって、すごくよかったです。

参加者感想文

たと思います。講義とか難しくて、私にちょっと分からなかなとか思ったりもしたんですけど、何となく自分なりに分かったような所もあったりしたので、よかったです、安心しました。

時間だけ決められて、内容をぼんと渡されたバズセッションや、フォーラムも初めてのことでので、それでいて、自分にまかしてもらえるセッションがある。頭の中がいっぱいでした。C班になって、すごくよかったことは、みんな、1人の意見に対して、すごく一生懸命になって聞いてくれて、4日間のつきあいの中で、こんなにうちとけられて、自分のことをいえた。そして、みんなの本当の気持ちが少しでもみれたり、ふれることができたことが、私にとって、すごくプラスになりました。すごくかったです。カウンセラーの方の心づかいや気づかいもすごくうれしかったです。

本当にこのセミナーに来てすごくかったです。

ありがとうございました。

カウンセラー 濱 浩一

素敵な受講生と共に3泊4日、楽しかった、語りあった、聞いた、飲んだ、泣いた、悩んだ、本音が出た、それぞれが何を学んでくれたのか？ 何に感動したのか？

この学んだものを持ち続け、この感動を持続し、それぞれの地域において如何に具体化されてゆくのか？ 一緒にまいた種をお互いが如何に育ててゆくのか？ 何かを具体的な活動に結びつけたい。何が一緒にできるのか？ きっと、すぐ又、会えるので、このことを忘れずに、次も熱く語り合いたい。（一緒に飲みたい） ちょっと羽目をはずしたかもしれないが、無茶苦茶楽しかったこの出会いは絶対に忘れない、ありがとう、本当にありがとうございました、感謝、又、きっと会おうぜ！！ 連絡を待つ！（他の班の受講生ともいい出会いがありました）

カウンセラー 猪野弘子

RYLAカウンセラーとして初めての参加をさせていただきました。来島前にいただいたフォーラムの論点は、範囲が広くいったいどこから考えてみたら良いのか、なかなか手がかりがつかめず、受講生の方、講師の先生方の取り組み方にとっても関心があり、カウンセラーというよりも共に勉強させていただくつもりで出席しました。

私なりに考えてみると、共生とは、お互いに頼ったり、頼られたりしながら生きていくもの、迷惑をかけたり、かけられたり、教えたり教えられたり、違いを認め合った上で成り立つものと、特に、人と人との共生に関心を持っていました。

講演の内容はここに改めて書くまでもなく、素晴らしいものでした。

余島で出会った若者たちが親睦を深めていき、セミナーの一日一日を終えるごとに人間としてのつながりを持つため、話し合い、よく聞き、理解を深め、グループの人夫々の

持てる力を生かし、テーマについての考え方を深め表現発表できました。その出会いの過程と結果が私にとって一番の心に残ったことでした。Cグループの皆さんありがとう。

カウンセラー 水谷淑子

多くの人に出会う楽しみ。人間としてよりステップアップしたい。自分を見つめなおしたい。行ってこいといわれた。毎日の生活の中、よくどうしたらと考えるので。……とC班のみなさんは、こんな思いをもち、余島へやってきました。どうでしたか、思い通りの3泊4日だったでしょうか。数回カウンセラーと参加して、馴れすぎた私への不満を、キャビンタイムで聞きました。私も、もっとゆっくり話したかったと思っています、ごめんね。タカ。チエゾウ。ミッキー。アッキー。ユウシロー。ミニー。モグ。マイチャン。ミアキ。ハッシー。ガリ。アダッキー。ありがとうございます。



ス・RYLA連昌安貝云



ウエルカムボードを作って下さった三木且視さんに余島からスタッフトレーナーを贈って感謝

参加者感想文

D 班



木下圭一

今回の R Y L A セミナーに参加させていただきありがとうございます。

セミナーの後での自分の変わったところは意識するということです。何事にも真剣に考えること。人生死ぬまで勉強といわれている中で、勉強するという事は考えることだと、はずかしながら23歳になってようやく気づきました。

また、この第21回 R Y L A セミナーのキーワードの共生についてとてもいい勉強をさせて頂きました。あぶあぶあ楽団の人達とのふれ合いもとてもいい経験となりました。彼らの目は少なくとも今の私の目よりは輝いて、本当に夢に向かって突進中なんだなあと感じました。

21世紀をになう若きリーダーとして少しでも今の世の中より暮らしやすい、又、おじいちゃん、おばあちゃん、身障者の人達とほのぼのした生活を送れる様、その夢が実現できる様努力していきたいです。

考える事をおこたらず、よき仲間達と話し合い、今から幾度となくわき上がるであろう問題を解決していく事をここに約束します。

本当に R Y L A に来て良かったです。

鈴木高見

ライラセミナーで過ごした3泊4日はとても充実した日になった。一番得たものと言えば、年齢、職業、出身県もバラバラのメンバーが初対面だったはずが、帰る時には、中学や高校の同窓生のように思えたことだ。志の同じメンバーに出会えて、それぞれの価値観

やモノの考え方などを学び、僕にとっては財産になったと思う。次に素晴らしい講師の講義を受けることが出来たことだと思う。とくに「あぶあぶあ」の東野洋子先生の講義には感動した。他人を思いやる気持ち、誰にでもすばらしい価値がある分かちあう心など多くのことを学んだ。その後のコンサートやミュージカルで紹介をしている時に流した洋子先生の涙には感動して泣きそうになりました。

来年のこの時期は大学3回生の春休みなのでまた参加して多くのものを得たいと思う。

瀬原祥隆

私は、勤務している会社から選ばれ洲本RCより参加させていただきました。今回のライラセミナーは3泊4日という泊まり込みのセミナーで又、参加メンバーのだれ一人知らない状況で大変不安でしたが、時が経つにつれ他の参加メンバーの大半がロータリークラブ関係の方のなかで繋がりのない所から選ばれた運命的なものを感じ感動しました。

『共生』といった日頃気にとめなかったことがテーマであり勉強するなかで無意識の内にやっていること、又これからやるべきことの多さを知りこれからの自分の生き方、リーダーとしてのあり方に自分で考える事にします。

最後になりましたが私がライラセミナーに参加するために協力して下さったすべての方々に感謝します。

ありがとうございました。

松山稔慎

忙しい年度末に3泊4日のセミナーに参加することは、正直な気持ち、私自身つらいものがありました。しかし、参加するには、どんなことでもいい、自分自身にプラスになることを吸収しよう、また自分自身を試そうと、思いました。

セミナーでは、学校生活を終えて社会人となった今、忘れかけていた「人間として一番大切な事」を学ぶことができ、非常に充実した時を過ごすことができました。今までいろんな研修会等に出席しましたが、今回程、自分の生き方（人間）を考えさせられた事はなかったように記憶しております。

セミナーを振り返れば、たくさんの事が頭の中をよぎりますが、私は、「仲間とこの時間を共生できた」ことを大切にし今後の社会生活に役立てたい、いや役立てます。

正木 智

このセミナーに参加して最も重要だと感じたことは、情報の共有化です。情報とは、考える材料です。各自がもっている情報を出し合い、それについての意見を交換しあうこと。そのためには、徹底的に議論し合える場を提供してくださったロータリークラブの人達に感謝をします。

参加者感想文

そして多数の意見を聞くことによって、多様な見方や考え方があり、それを取り入れながら自分の考えをあらためて再確認すること。相手の意見を吸収することによって自分の視点が広がりました。自分の視点を広げることが、自分の生き方や価値観を変えることができました。

自分の価値観が変わったといえば、東野洋子さんの講演会を聞いたことである。また楽団あぶあぶあのミュージカルを見たことが私に刺激を与えてくれた。あれほどの無色透明な笑顔が見れたことは、どんなに私の笑顔が社会の制度化されたものであるかということを認識させられた。

これからは、何でも吸収できる感性を持ちつづけることが重要だと感じた。

永見真人

今回初めてRYLAセミナーに参加することができました。RYLAセミナーでは青少年のリーダーを目指す人を育成させる目的がありますが、ただそれだけではなく参加した人自身に平衡のとれた価値観や有意義な討論の方法などを学ぶことができたと思います。

また、このセミナーでは素晴らしい出会いがありました。このセミナーに参加している人はすでに奉仕の重要性などを理解し、また各々の考え方や理論、信念などを見、聴き、話し合うことができました。他の人がある一つの問題に対して、どのように考えており、どのように行動しているか？といったことを話し合う機会は、日常生活の中では、あまりないのですが、この4日間、朝も昼も夜も、共に新しい友人と話し合うことが出来ました。

来て良かった。というのが今の私の気持ちです。

田渕賀裕

全体としては、久しぶりに純粋な気持ちで、カウンセラー含む班員と意見交換、スポーツなどが出来、かけがえのない体験となりました。プログラムはとても充実しており特に午前中のレクチャーは非常にレヴェルも高く、受講生からみると少しもったいないでは、と思うくらい素晴らしく感銘を受けました。

三日目のバズセッション、フォーラムは体験のない多くの人に貴重な体験をさせることができたと思います。ただフォーラムの後半、全員でのディスカッションにまで持ちこめられなかったのは少し消化不良を感じました。

何度かのキャビンタイムは、カウンセラーがでしゃばることなく、リードすることなく、自然に我々を討論しやすい雰囲気へと導いてくれたという感じで20~40才の人間同士の落ち着いた、かつ本音を出し合った素晴らしい時間となりました。私を含めてD班全員の貴重な体験になったと思います。

あぶあぶあの皆さんにお会いできて、もちろん感謝、感激しています。ただ、プログラムの中で彼らとゆっくり話したり、遊んだりする時間がとれなく残念に思いました。

これ程素晴らしいセミナーに参加出来たことを心からお礼申し上げます。又カウンセラーはじめ多くの関係者の方に感謝します。

私自身この体験は今後の人生において大きくプラスになったことを信じてやみません。ありがとうございました。

大宅由起子

今回、ライラに参加させて頂き、本当に「出会い」の素晴らしさに改めて気付かされました。特に、今回の研修の中でも私が、とても誇りに思える出会いが二つありました。一つ目は、D班の仲間と、アドバイザーの出会いです。いろいろな職種、さまざまな人生経験をされてきた仲間と、同じ時間を共有する中で、その人の生き様や考え方から色々なことを学びました。また、同じことを体験することで、喜びを分かち合える嬉しさを心から底から感じることができました。そして、少しも飾らない、ありのままの自分でアドバイスして下さった、アドバイザーに本当に感謝しています。私も、アドバイザーのように、みなさんから慕ってもらえるような人になりたいと思います。

二つ目は、楽団あぶあぶあの東野洋子先生との出会いです。今までの人生の中で、洋子先生のような考え方や、生き方をした人とお会いする機会はありませんでした。洋子先生のように素晴らしい信念を持ち、それをとても純粋に貫き通している人は、私の周りにはいません。今回のお話を聞いて、洋子先生の愛の深さ、人間性、生き方に感動し、涙が止まりませんでした。そして、日頃の自分と置き替えて考えた時、反省しなければならない点が沢山あることに気付きました。私は、洋子先生との出会いの機会を下さったライラと神様に感謝の気持ちでいっぱいです。

今回、ライラの中で、得た、人との交流による喜び、感動を自分の人生への活力と、明日からの教育の現場に、少しでも生かせるよう頑張っていきたいと思います。本当に有り難うございました。

井澤三佳

短い4日間という間に、普段、心に止めながらもあいまいにしてみたり、忘れがちになっていた、大切なことを学び、再確認をしました。

私自身、高齢者の介護の仕事をしていますが、その1人の人（高齢者）の価値の大切さ、又、それを認識するアンテナを伸ばさなくてはと改めて感じました。

「共生」という、とても大きく、深い問題につき、4日前に初めて出会った仲間達と考え、気持ちを深められたこんな機会を、与えられた事に感謝します。

齊藤亜希

私がこのライラセミナーで考えたことは、“共生”、それともう一つ、“自分が自分ら

参加者感想文

しくある”ということです。前者についてはセミナー中ずっと考える機会を与えられていましたし、すばらしい講義も聞くことができました。後者について、考えるきっかけとなつたのは、あぶあぶあの皆さんのお演奏を聞いたことです。皆さん本当に楽しんで、そして真剣にやっているのだなということが伝わってきましたし、それは、人から強制されてやっているのではないし、人に頼りきってやっているのでもない、本当に自らやるということを決め、自らの力で自らができる事を精一杯やっているのではないかと思ったのです。その姿を見て、それが、彼らにとって本当に彼ららしく生きる姿なのではないかと感じました。そして、彼らと私たちが同じ時間を共に過ごし、共に楽しむことができたこと、又、感じ合えたことに対し感謝の気持ちが自然に湧いてきました。“自分が自分らしく生きる”いうことは、当たり前のことのようですが、私は、実はそれは難しいことだと思います。又、自分がそのように生きてゆける場所も少ないのではないかと思う。

しかし、この言葉は“共に生きる”ためのキーワードでもあると思います。自分が自分らしくあるために、その人がその人らしくあるために、交流の場を多く持ち、話し合いを重ね、お互いに理解を深めてゆく、その中で助け合い、分かち合い、共に考え、共に歩んでゆけるのだと思います。

この4日間で学んだことを、自分の普段の生活に持ち帰り、友と分かち合うことで、自己納得をし、そして自己実現へと発展させてゆきたいです。

鈴木真樹子

ロータリークラブやボランティア活動に無縁だった私が、このような機会を与えられ、「RYLAセミナー」へ参加させていただけた事に、とても感謝いたしております。

RYLAセミナーで「共生」をテーマに三名の講師の方のお話を聞き、グループでのバズセッション、フォーラム参加により、改めて「生きている」と言うことに感動いたしました。そして、一人で生きているのではなく、かけがえのない人の大切さを学び、「どうして生きているか」と言う事を考えました。私は、感動を受けたり、感動を与えたり、喜び合う為に生きているのだと思いました。「あぶあぶあ樂団」との出会いは、まさに、そのものだったと思います。

これから、地域へ帰り、1人でも多くの人にこのセミナーで学んだ事、感じた事を伝え、自分自身成長し続けたいと思います。最後に、この4日間、貴重な時間をご指導いただきました皆様と受講生の皆様に…ありがとうございました。

末友美紀

初めてライラセミナーに参加して、ロータリアンの方から、3泊4日余島で缶詰め状態で討論会をすると聞かされていて、少し心配だったのですが、とても楽しい思い出になりました。

私達の班は、ほのぼのとした雰囲気で、みんなすぐに仲良くなりました。自由時間も班のみんなでテニスやサッカーをすることにより仲良くなれたと思います。

今回、3人の先生方から共生についての講義があり、とてもためになりました。またあぶあぶあのみんなの演奏と輝いている笑顔にとても感動しました。バズセッションでは、同じ年代のみんながそれぞれに立派な意見を持っていたことに驚きました。そして活発に意見を出しあえたこと、またフォーラムで大勢の人の前で発表できたことがとても良い経験になりました。

あっという間に過ぎた3泊4日でしたが、たくさんの友達ができ意見交換ができ、何よりも良いお話をたくさん聞かせていただいて、参加できることをうれしく思います。

このセミナーで学んだことを地域社会、またローターアクトクラブの活動に還元していきたいと思います。

本当にありがとうございました。

カウンセラー 松崎和博

- ・部屋の人数をもう少し楽にしてもらいたい。
- ・ライラセミナーの周知をもっと各RCで行ってもらいたい。私もRCの内でPRを行う。セミナーに参加すればもっと会員相互で必要性がわかると思う。
- ・青少年の参加者セミナーも大切だが、RC会員の意識がもっと必要である。1日でもいいから、各会長は参加をし体験をしてもらいたい。

2680地区のみなさんありがとうございました。

2670地区の参加をもっとふやしていきたい。

特に香川地区はがんばらなくてはいけないと思う。

カウンセラー 高岡政次

今回のセミナーで思ったこと!!

①テーマの徹底ができていなかったように思う。クラブのロータリアンが悪いとか、本人に渡しているのに勉強していないと言ったところで、どうしょうもないでの、できれば、オリエンテーションの時に明確に理解をしてから開始するほうがBestでは。

②フォーラムに関して思ったこと!!

発表の時間がとりすぎて、本来のフォーラムの形がとりにくかったように思う。いくら、トレーニングと言えども、時間をきめて発表し、その後の時間をうまく使うほうがよいのでは。

③90分をこえる講義の場合は、できれば中間頃に5分位のトイレ休みをとったほうがよいのでは。

☆最後にほんとうにカウンセラーをさせていただき勉強になりました。ぜひ来年も、お願

参加者感想文

いします。

ありがとうございました。

カウンセラー 岡野和枝

他者との係わりが希薄、苦手といわれる若い世代の人達が、本当はチャンスや少しの働きかけがあれば人として素直に交わり、又深く共感できるのだという事を実感できた4日間でした。

セミナーのプログラムは、その時々で工夫がされていくこととは思いますが、人が人と誠実に向きあうという事が原点の場づくりは、これからも絶対必要であり、その為の意義はとても大きいとおもいます。

カウンセラーという立場での参加でしたが、一人の人間として受講生一人一人と出会えた事は大きな感謝です。

有難うございました。



セミナーの準備をするスタッフ

参
加
者
名
簿

〈第21回 R Y L A セミナー運営委員会〉

ガバナー 佐々木 善 堯 (第2670地区ガバナー 西条R. C.)
谷 水 清 司 (第2680地区ガバナー 神戸西R. C.)
顧問 橋本憲佳 (第2670地区P. G. 高知R. C.)
今井 鎮雄 (元R. I. 理事 第2680地区P. G. 神戸西R. C.)
アドバイザー 須之内 淳二 (第2670地区P. G. 松山西R. C.)
深川 純一 (第2680地区P. G. 伊丹R. C.)

ライラセミナーアドバイザー
吉本 功 (第2670地区 高知東R. C.)
安平和彦 (第2680地区 姫路R. C.)
三木 明 (第2680地区 姫路R. C.)
ディーン 山口 徹 (第2680地区 神戸R. C.)
副ディーン 篠原成行 (第2670地区 北条R. C.)

■ R. I. 第2670地区

青少年奉仕委員長	ライラ委員長
篠原成行 (北条R. C.)	篠原成行 (北条R. C.)
ライラ委員	
中島萬里 (徳島西R. C.)	山下和彦 (高松グリーンR. C.)
桑原征一 (新居浜R. C.)	高岡政次 (松山南R. C.)
浜田英宏 (中芸R. C.)	

■ R. I. 第2680地区

青少年活動委員長	ライラ委員長
山口徹 (神戸R. C.)	赤穂哲 (姫路南R. C.)
ライラ委員	
井奥寛泰 (姫路南R. C.)	三木且視 (龍野R. C.)
加藤拓 (伊丹R. C.)	小池弘三 (神戸ハーバーR. C.)
永松潔和 (神戸R. C.)	

カウンセラー

白石正明 (高松グリーンR. C.)	永松潔和 (神戸R. C.)
松崎和博 (高松グリーンR. C.)	濱浩一 (神戸R. C.)
猪野弘子 (松山南R. C. 会員夫人)	空地顯一 (姫路R. C.)
石川美佐子 (高松グリーンR. C. 会員夫人)	水谷淑子 (神戸垂水R. C. 会員夫人)
弘光妙子 (高知東R. C. 会員夫人)	岡野和枝 (神戸中R. C. 会員夫人)

主催
R.I. 第2670地区
R.I. 第2680地区
RYLA運営委員会

RYLA運営事務局

第2670地区 ガバナー事務所
〒792-
0007 新居浜市前田町 6-9
リーガロイヤルホテル
新居浜 2 階
TEL 0897-35-2211
FAX 0897-65-1953

第2680地区 ガバナー事務所
〒650-
0042 神戸市中央区波止場町 2-1
ホテルオークラ神戸705号
TEL 078-392-2680
FAX 078-392-2681